平成３０年度

研　究　紀　要

第５１号

研究主題

新学習指導要領実施への新たな特別活動の展開

東京都中学校特別活動研究会

研 究 紀 要 目 次

１　研究紀要第５１号に寄せて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
会長　小平市立小平第五中学校　校長　青木由美子

２　平成３０年度の研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
事務局長　江戸川区立松江第一中学校　副校長　荒巻　淳

３　研修会の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

第１回 研修会　「特別活動実践事例の発表」
講師　平成２７年度東京都教育研究員　江東区立有明西学園　有川 直志主任教諭
平成２８年度東京都教育研究員　足立区立第十四中学校　酒井 寛子　教諭

第２回 研修会　「各校の生徒会活動の課題から」　～生徒会担当者の役割～
生徒会サミット　生徒会担当者研修
指導助言　東大和市教育委員会　佐々木　辰彦
墨田区教育委員会　長谷川　晋也

４　第１７回 生徒会長サミット報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１

５　第４７回 全日本中学校特別活動研究会　東京大会　報告・・・・・・・・・・・・・２１

６　平成 29・30 年度国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業・・・・・３８
「特別活動」の公開授業・研究発表会　報告

７　調査研究報告「東京都教育研究員　特別活動　研究発表会」・・・・・・・・・・・４０
研究主題「自己実現のために必要な資質・能力を高める学級活動の工夫」
～自他のよさを認め合う話し合い活動を通して～
研究授業
学級活動「学級目標の実現　今までの活動を確認しさらなる向上を目指そう」
指導助言・講演　小平市立小平第五中学校　校長　青木 由美子

◇ 会則 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５５

◇ 平成３０年度　事務局員　名簿 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５８

研究紀要第５１号に寄せて

東京都中学校特別活動研究会
会長　青木　由美子
（小平市立小平第五中学校）

研究紀要第 51 号の発行に当たり、本研究会を代表してご挨拶させていただきます。今年度、本研究会は、研究主題を「新学習指導要領実施への新たな特別活動の展望」として研究と実践を重ねてきました。関係の皆様には、本研究会へのご理解とご支援をいただきましたことに感謝を申し上げます。

さらに、本年度開催いたしました第 47 回全日本中学校特別活動研究会・東京大会に多大なご支援を賜り心から感謝申し上げます。

今年度は改訂された学習指導要領において特別活動が先行実施を始めた年度となりました。本研究会としては、各学校における特別活動の実践のさらなる充実と発展を期待したいところです。しかしながら特別活動は、他の教科と違ってすべての教員が指導者となる領域であるにもかかわらず、教科書や指導書が無いこともあって、指導者の理解の深まりや指導法等の研究開発が進まない現状があります。

そうした中、今年度本研究会は、２回の研修会と第 47 回全日本中学校特別活動研究会・東京大会、第 17 回生徒会長サミットを開催し、多くの生徒や教員等に参会していただくことができました。どの活動も、すぐに実践の充実につながる情報共有、情報発信の機会となったと感じております。これらの活動の内容や成果につきましては、この研究紀要にまとめてございますのでご覧いただけると幸いです。

時代を担う子供達に、自分に自信をもたせ、将来への夢や希望の実現に向けて、生きる力の育成を図ることができるよう、活動の充実や指導力の向上に向けて、本研究会としても今後も充実した情報が発信できるよう、努めてまいりたいと存じます。

今後とも本研究会の活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

平成３０年度の研究について

研究主題：新学習指導要領実施への新たな特別活動の展開

１　定期総会　　平成３０年５月２６日（土）　練馬区立関中学校

２　研修会

（１）第１回研修会　平成３０年８月１日（水）練馬区立豊玉第二中学校

特別活動実践事例の発表者
江東区立有明西学園　　有川　直志　主任教諭
足立区立第十四中学校　酒井　寛子　　教諭

（２）第２回研修会　平成３０年１２月２６日（水）　練馬区立関中学校

生徒会長サミット・生徒会担当教員研修会

講師：東大和市立第一中学校　　経営支援員 佐々木辰彦

墨田区適応指導教室ステップ学級(指導員）長谷川晋也

（３）宿泊研修会　　平成３０年８月１９日（日）～２０日（月）　箱根湯本「開雲」

３　第47回　全日本中学校特別活動研究会・東京大会　開催

４　生徒会長サミット　平成３０年１２月２６日（水）練馬区立関中学校

５　平成29・30年度国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業

「特別活動」の公開授業・研究発表会　参加

６　東京都教育研究員特別活動研究発表会　参加

平成３１年２月１５日（金）　葛飾区立常盤中学校
研究主題：「自己実現に必要な資質・能力を高める学級活動 の工夫 」
～自他のよさを認め合う話合い活動を通して ～
学級活動「学級目標の実現に向けて自分のよさを生かそう」
指導助言：小平市立小平第五中学校　校長　青木　由美子
（東京都中学校特別活動研究会 会長 ）

７　事務局会　年間９回実施（練馬区立関中学校、江戸川区立松江第一中学校）

８　会報発行　第９５号、９６号の発行

９　研究紀要発行　第５１号の発行

10　東京都中学校特別活動研究会のホームページの運営

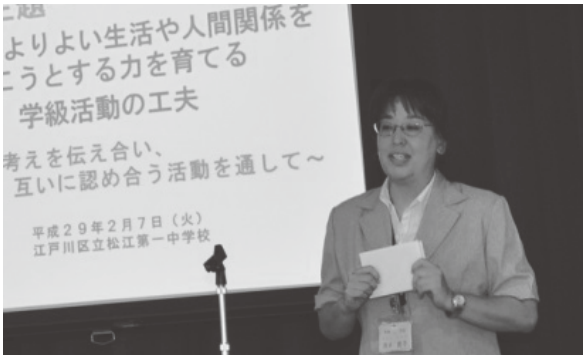
第１回　研修会の報告

平成３０年８月１日（水）午後１時３０分～午後４時３０分、練馬区立豊玉第二中学校で第１回研修会を開催した。平成２７年度東京都教育研究員　江東区立有明西学園　有川 直志　主任教諭、平成２８年度東京都教育研究員　足立区立第十四中学校　酒井 寛子　教諭をお迎えし、「特別活動実践事例の発表」が行われた。

発表の後、参加者全員が小グループに分かれ、特別活動の３分野（学級活動、生徒会活動、学校行事）について各校の現状について情報交換を行い、その内容を全員に向け発表し合った。大規模校と小規模校での違い、担当者や地域による違いなど、さまざまな情報を共有することができた。

【江東区立有明西学園　有川 直志　主任教諭】
平成２７年度　東京都教育研究員

【足立区立第十四中学校　酒井 寛子　教諭】
平成２８年度　東京都教育研究員



＜発表の内容＞

（１）　役割に着目した学級活動の工夫
「自己有用感」と「集団への所属感」を高めるために

江東区立有明西学園　主任教諭　有川 直志

教師と生徒の関係は、教師が生徒と一対一でつながるのでなく、生徒同士が相互に学び合いの活動をし、教師は生徒の活動を支援するのが望ましい。生徒は、自分の良さを知り他人の良さに関心をもつ。自分の良さを役割に生かし、他者の役割に関心をもつ。役割を実践することで他者の役割を承認する。果たした役割を振り返り、学級集団への貢献を実感する。

生徒一人一人の学級における「自己有用感」と「集団への所属感」を相互作用的に高め、学級におけるよりよい生活づくりに参画しようとする自主的、実践的な態度を育てるために、

①　役割の自覚、役割の自己決定に納得感をもたせる指導の工夫を行う。
　生徒一人一人が自己の役割を自覚することが必要である。

②　自分が果たす役割に対する自己評価・他者評価の指導の工夫を行う。
　果たした役割に対して、他者からの肯定的な評価（認める、褒める）が得られることも大切である。

③　行事やよりよい生活づくりに向かって行う授業実践と日々の小さな取組を行う。
　実践の場を与えることが必要である。

以上の仮説を立て、検証授業を実施した。その結果、次のことがわかった。

「生徒一人一人が学級での役割を理解するとともに役割を果たす」ことと「生徒同士の相互評価を含む継続的な学級活動」により、生徒全体の「自己有用感」と「集団への所属感」は相

互作用的に高まったということができる。それは、両者の間にある量的な相関関係に加え、どちらか一方でも数値が上昇した生徒の記述に「役割を果たそうとする意欲」や「自分のよさが認められて嬉しい気持ち」、「学級への愛着や思い入れ」が多く読みとれたという質的な分析の結果からもいえる。

課題として、①積極的な参加が難しい生徒への具体的な支援、②生徒の表現力を向上させる手法（言語活動）、③深い人間関係を構築している手法。生徒のよさのみだけでなく、生徒の課題をフィードバックできるようにすることが挙げられた。

（２） 主体的によりよい生活や人間関係を築こうとする力を育てる学級活動の工夫 ～自分の考えを伝え合い、互いに認め合う活動を通して～

足立区立第十四中学校　教諭　酒井 寛子

生徒の実態から、課題として次の点が挙げられた。

・自尊感情が低く、自分の意見や考えを述べることが苦手である。

・他の生徒を認めようとする気持ちが弱い。

・自分から課題を発見し、解決しようとすることが苦手である。

身に付けさせたい力は以下の３つ。

＜自己実現＞　自らの課題を発見し、改善する力

＜人間関係形成＞　積極的な意見交換から、互いを認め合い、よりよい生活や人間関係を築こうとする力

＜社会参画＞　集団の諸問題に対して、主体的に関わり解決しようとする力

研究主題と関連付け、人間関係形成の視点を中心として、積極的な意見交換や互いを認め合う活動を通して、よりよい生活や人間関係を築こうとする力を高める学級活動の工夫について研究を進めた。

研究の視点は「一人一人が自分の考えをもち、伝え合うための工夫」と「互いに認め合うための工夫」の２点。

学級活動を通して、一人一人が自分の考えをもって伝え合うとともに、互いに認め合うことができるようにすれば、よりよい生活や人間関係を築こうとする力が育つであろう。と仮説を立て、合唱コンクールに向けた取組を通して実践検証した。

一人一人が自分の考えをもち、伝え合うための工夫として、事前にアンケート調査等を行い話合いの必然性を自覚させる。落ち着いて話合いができるよう、自分の意見や考えをワークシートに記入しておく。話合い活動を円滑に進めるため、小集団での話合いの場を設定する。学級の中心となって活動を進める生徒に、事前に指導を行う。互いに認め合うための工夫として、話合い活動の中で、共感できる他の生徒の意見に対して、付箋にメッセージを書く。「振り返りシート」に、他の生徒からの肯定的評価を記入する欄を設ける。毎時間の授業や実践活動の終わりなどに相互評価を含む振り返りを充実させる。他の生徒の考えで自分の参考になった意見やよかった活動などを書かせて発表させた。

ワークシートの活用や、合意形成を図るためホワイトボードを活用してグループの考えを伝え合わせた。話合い活動を円滑に進めるため、机をＴ字型配置にしたり、解決方法の話合い・

決定のために目標達成マップを使ったり、発言が苦手な生徒のために、自分の考えを記入した付箋を貼らせたりした。

合唱コンクール終了後の取組全体の振り返りでは、シートと付箋を活用し、グループでまとめた意見を学級全体で共有するため、発表の形式ではなく、他のグループが作成したシートを順番に回覧させ、発表形式では伝えられない細かな内容についても学級全体で共通理解を図るようにした。

成果は、付箋は多様な意見を引き出すとともに、類似した意見をまとめる活動にも効果的であったこと。学級の話合いで決まった「人の話をきちんと聞く」ことについて、改善への意識をもって学校生活を送ることができるようになったこと。

課題は、合意形成において、話合いの柱や手順、意見のまとめ方等について、事前に司会者へのきめ細やかな指導が必要であったこと。回覧する場面での認め合いの工夫として、共感できた付箋の近くに正の字で評価するなどすれば、自席に戻ったときに自分の意見への評価が確認できたと考える。

東京都中学校特別活動研究会長
（小平市立小平第五中学校長）
青木 由美子　先生から、「活発な意見交流会にしましょう」とご挨拶があった。

第２回研修会の報告

１　日　時　　平成３０年１２月２６日（水）
２　場　所　　練馬区立関中学校　多目的室
３　内　容　　各校の生徒会活動の課題から　～生徒会担当者の役割～
４　講　師　　東大和市教育センター　サポートルーム　主任指導員　佐々木　辰彦
　　墨田区適応指導教室ステップ学級　指導員　長谷川　晋也

平成３０年度第１７回生徒会長サミットにおいて、生徒引率の生徒会担当教師を対象に研修を行った。

二人の講師の先生から、学習指導要領解説から生徒会活動の目標や内容、活動実践例を通して生徒会活動を活性化するための方策や生徒会活動が学校運営上においても重要な役割を担っていることについての説明があった。また各校の生徒会担当者から多く寄せられる悩みや課題について具体的な３アドバイス等が行われた。

後半は約７０名の生徒会担当者が小グループに分かれ、各学校の生徒会活動の取組や指導上の課題等について、情報交換、意見交換を行った。

◇引率された先生方のための研修会

東大和市教育センター　サポートルーム
主任指導員　佐々木　辰彦
１　学習指導要領　特別活動

（１）特別活動の目標から

《新学習指導要領》

『集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す』

（１）多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動をする上で必要となることを理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
（２）集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意志決定したりすることができるようにする。
（３）自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

（２）生徒会活動の目標

『異年齢の生徒同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的、実践的に取り組むことを通して、第１の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。』

（3）「目標」から

生徒会活動は、全校の生徒をもって組織する生徒会において、学校における自分たちの生活の充実・発展や学校生活の改善・向上を目指すために、生徒の立場から自発的、自治的に行われる活動である。

生徒会活動は、学年、学級を越えて全ての生徒から構成される集団での活動であり、異年齢の生徒同士で協力したり、よりよく交流したり、協働して目標の実現をしたりしようとする活動である。

（4）生徒会活動における資質・能力の育成（例）

〇生徒会やその中に置かれる委員会などの異年齢により構成される自治的組織における活動の意義について理解するとともに、その活動のたまに必要なことを理解し行動の仕方を身に付けるようにする。

〇生徒会において、学校全体の生活をよりよくするための課題を見いだし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意志決定したり、人間関係をよりよく形成したりすることができるようにする。

〇自治的な集団における活動を通して身に付けたことを生かして、多様な他者と協働し、学校や地域社会における生活をよりよくしようとする態度を養う。

中学校の生徒会活動においては、小学校での児童会活動で身に付けた態度や能力を基礎にし、生徒の自発的、自治的に活動する態度や能力を高めていくようにすることが必要であり、自主的、実践的に活動できる場や機会の計画的な確保も含めた学校の一貫した指導体制の下に運営される必要がある。

その際、生徒の自主性、自発性をできるだけ尊重し、生徒が自ら活動の計画を立て、生徒がそれぞれの役割を分担し、協力し合って望ましい集団活動を進めるよう、教師が適切に指導・援助することが大切である。

具体的には、例えば生徒総会において、生徒会として協力して取り組むべきことを**合意形成**して実践し、その成果等を踏まえて次の課題につなげたり、各種の委員会で取り組むことを決め、実践し、振り返って次の課題に向かったりするという活動が考えられる。

2　生徒会活動の内容と活動例

（1）　生徒会の組織づくりと生徒会の計画や運営

生徒の自主性、自発性をできるだけ尊重し、生徒が自ら活動の計画を立て、協力し合って望ましい集団活動を進めるよう指導することが大切である。

しかし、生徒の発達の段階からいってもその計画や運営は決して容易なことではない。また、生徒会活動は、その活動内容・範囲が極めて広いので、生徒会活動を活性化し、その教育的価値を高めていくためには、教師の適切な指導と、活動に必要な場や機会の計画な確保も含めた学校の一貫した指導体制の下に運営されることが大切である。

生徒会活動において、学校生活の改善を図る活動を**全校生徒の課題**として取り上げ、継続的に取り組むものとしては、例えば以下のような活動が考えられる。

生徒会活動において、学校生活の**改善に向けた議題**を取り上げ、話し合って生徒会全体で取り組むことを合意形成したり、各種の委員会において、それぞれの委員会ごとに課題を設定して実践し、振り返って次の活動につなげていったりすることが考えられる。

〇学校生活における規律とよき文化・校風の発展に関わる活動
〇環境の保全や美化のための活動
〇生徒の教養や情操の向上にための活動
〇よりよい人間関係を形成するための活動
〇身近な課題等の解決を図る活動

（２）学校行事への協力

〇学校行事の意味を理解し、生徒会としての意見を生かすための組織や全校生徒の協働を図る仕組みづくりなどについて理解する。

〇学校行事の特質に応じて、生徒会としてどうような協力を行うことが学校行の充実につながるか考え話し合い、決めたことについて**協力して**取り組んだり、生徒会の組織を活用した学校行事運営上の**役割**に取り組んだりできるようにする。

〇他の生徒と協力して、学校行事に協力する活動に取り組むことを通して、**学校生活の充実と向上を図ろうとする態度**を養う。

（３）ボランティア活動などの社会参画

〇よりよい地域づくりのために自分たちの意見を生かし、主体的に社会参画するために必要なことを理解し、仕方を身に付ける。

〇地域・社会の課題を解決するために、生徒会の組織を生かして取り組むことができる具体的な対策を考え、主体的に実践することができる。

〇地域・社会の形成者として、地域や社会生活をよりよくしようとする態度を養う。

（４）生徒指導との関連を図る

生徒会活動においては、教師と生徒及び生徒相互の好ましい人間関係を深めるようにし、生徒が自主的に判断、行動し積極的に自己を生かしていくことができるように配慮することが大切である。特に生徒会活動が行われる諸集団において生徒一人一人が何らかの役割をもち、自己の責任や判断に基づいて仕事を遂行し、充実感や存在感を味わうための援助ができるような指導計画を作成する必要がある。

また、生徒会活動においては、様々な組織や集団に分かれて活動することが多いが、学級や年齢が互いに異なる成員による活動であり、**生徒は様々な悩みや問題を抱えることも少ない。**したがって、**担当教師と学級担任教師とが連携して教育相談を行えるように配慮して計画を作成することが大切である。**

（５）生徒会の組織

「生徒総会」は、全校の生徒による生徒会の最高審議機関であり、年間の活動計画の決定、年間の活動の結果の報告や承認、生徒会規約の改定など生徒全体の参加の下に、生徒会としての基本的な事項についての審議を行う。

「生徒評議会」は、生徒総会に次ぐ審議機関として、生徒会に提出する議案などの審議、学級や各種の委員会から出される諸問題の解決、学級活動や部活動などに関する連絡調整など、生徒会活動に関する種々の計画やその実施の審議にあたる。

「生徒会役員」は、年間の活動の企画と計画の作成、審議を必要とする議題の提出、各種の委員会の招集など、生徒会全体の運営や執行に当たる。

また、学校の生徒を代表する組織として、様々な取組の推進的な役割を担ったり、学校のよさや特徴などの情報を学校外に発信するなどの役割を担ったりする。

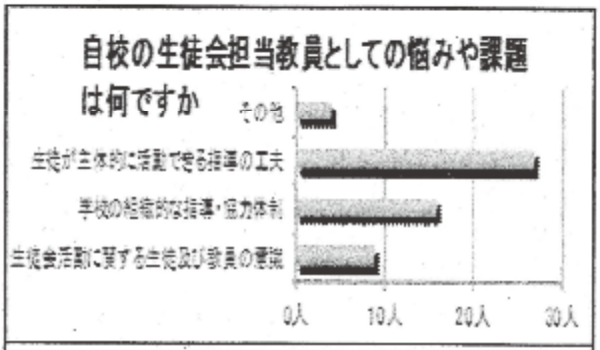
「各種の委員会」は、例えば、生活規律に関する委員会、健康・安全や学校給食に関する委員会、ボランティアに関する委員会、さらに合唱祭や文化祭、体育祭などの実行委員会など、学校の実情や伝統によって種々設けられ、生徒会活動における実践活動の推進の役割を担っている。

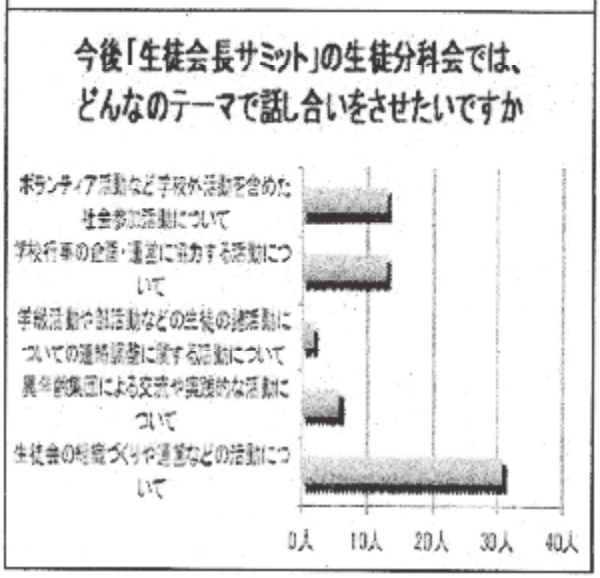
◇各校の生徒会活動の課題から

墨田区適応指導教室ステップ学級　指導員　長谷川　晋也

平成３０年度 生徒会担当者資料

◇各校の生徒会活動の課題から





左のグラフは平成２７年度末に、その年度の生徒会サミットに参加した学校の引率に来られた先生方に、サミット実施３ヶ月後にお願いした各校の課題についてのアンケートの結果です。

生徒会担当者としての悩みや課題について、多い順から、

○生徒が主体的に活動できる指導の工夫
○学校の組織的な指導・協力体制
○生徒会活動にに関する生徒教員の意識

となっています。

・生徒会役員の学習や部活動の両立、活動時間の確保、
・生徒会役員に活動の意欲を持たせること、生徒主体の活動にすること
・生徒会活動を全校生徒に周知すること
・教員間の連携がうまくできない
・顧問としての経験が不足しており指導に不安がある
・計画的な取組ができない　等々

今回、各校の申込書に先生方から書いていただいた各校の課題も共通の傾向があるように思います。

また、二つ目のグラフは、生徒たちに話し合わせたいテーマ（内容）について考えていただいたものですが、最も多くの先生方が挙げたテーマが、

・生徒会の組織づくりや運営などの活動について　となっています。

これは、生徒による自主的な**「生徒会の組織づくりや運営などの活動」**が、指導者の立場からの**「生徒が主体的に活動できる指導の工夫」**と表裏一体であることを指導者である先生方がひしひしと感じていらっしゃるから、また、生徒会活動の持つ本来のねらい「望ましい人間関係」と「自主的、実践的な態度」の育成に繋がっているからではないでしょうか。そこで？

生徒会活動の指導にとって、**本当に大切なことは何か。**

○活動の目的は、何なのか。

ex.　あいさつ運動⇒「あいさつ」を生徒会活動ですることの意味は何なのか？
　　ボランティア活動の活性化⇒参加者を増やすことが目的なのか？
その活動の（指導の）そもそもをしっかり押さえた上で、

○日常の活動をしっかりと続けて行くこと

やりっぱなしになっていないか⇒**評価の活用**　**ねらいに基づいた評価を返しているか**
生徒による自己評価・相互評価　　正しい評価は次の活動に繋がっていく
　　プラスの評価は意欲に結びつく
教員による評価　**事前に提示**（本来の「ねらい」を踏まえた評価）
　　生徒会活動を意識させる（生徒会広報も有効）　巻き込んでいく

○その上で意欲の向上を求めるなら

ex.　委員会活動⇒何のための委員会活動なのか？　下請けでない　発想を生かす
　　生徒会本部（役員会）においても　**生徒の発想を生かす　実現を手助けする姿勢**

○年間計画　準備の段階から考えられた計画　発達段階を配慮⇒１、２、３年生の役割とねらい

○情報交換　教員経験５年以下の先生が５割以上　同区市内の担当者同士（サミット）と
○時間の確保　ﾗﾝﾁﾐｰﾃｨﾝｸﾞ（土曜授業）

第１７回 生徒会長サミット

日　時　平成３０年１２月２６日（水）　　１３：００～１６：００
会　場　練馬区立関中学校

第１部　　全体会（体育館）　１３：００～１３：５０

＜全体司会：狛江市立狛江第一中学校生徒会＞

１　開会の言葉　狛江市立狛江第一中学校生徒会

２　あいさつ　　東京都中学校特別活動研究会会長　　青木由美子
（小平市立小平第五中学校長）

３　実践発表

（１）国分寺市立第四中学校生徒会の取り組み

（２）練馬区立練馬中学校生徒会の取り組み

４　諸連絡　　狛江市立狛江第一中学校　谷口　典夫

第２部　　生徒分科会　（５分科会）１４：００～１６：００

１　実践報告についての協議・意見交換

２　各学校での生徒会活動の取り組みについて

（１）　実践事例の紹介

（２）　生徒会活動の課題、悩みなど

（３）　アンケート記入

（４）　コーディネーターより

○ 生徒会担当者研修会（多目的室）

１　講師の講話

２　小グループに分かれての意見交換、情報交換

１ 全体会

本年度は都内６５校から１５０名の生徒会役員が参加し開催された。全体会では主催者を代表して東京都中学校特別活動研究会の青木由美子会長の挨拶に続き、代表校の国分寺市立第四中学校、練馬区立練馬中学校が活動事例を発表した。その後参加した生徒会役員が、５分科会に分かれ各校の活動の交流や課題の共有と改善策の協議等を行った。

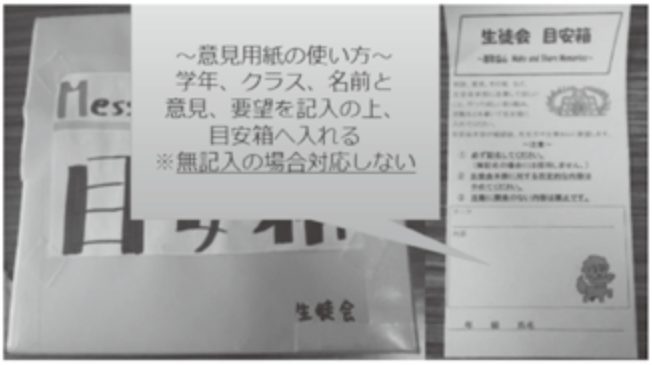
（１）全体会発表１　練馬区立練馬中学校生徒会

【発表スライド】

目安箱
stand by me カード
あったかい言葉ポスター

目安箱

生徒から意見をもらい、
学校をより過ごしやすくするためのもの

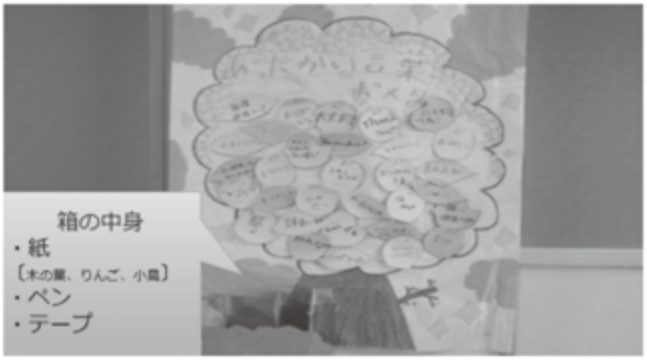


Stand by me カード

生徒が、先生や大人に相談しにくいことを、
生徒同士である生徒会役員に
相談するためのもの。

あったかい言葉ポスター

あたたかい言葉で、
学校生活やその他での悩みやストレスを
解消するとともに、
温かい気持ちにするためのもの。



寄せられた言葉

- ▶おめでとう
- ▶ありがとう
- ▶一緒にいると楽しい
- ▶字がきれい
- ▶可愛い
- ▶かっこいい
- ▶好きだよ！
- ▶頑張って
- ▶ファイト！
- ▶お疲れ様

得られた成果

▶生徒の意見を聞き、改善案を検討した。

▶受験やテストの励ましになった。

改善点

▶参加人数が少なかった。
⇨呼びかけを増やす。プリントを配布する。など

▶取り組みの内容を間違えている人がいた。
⇨具体的な説明を増やす。など

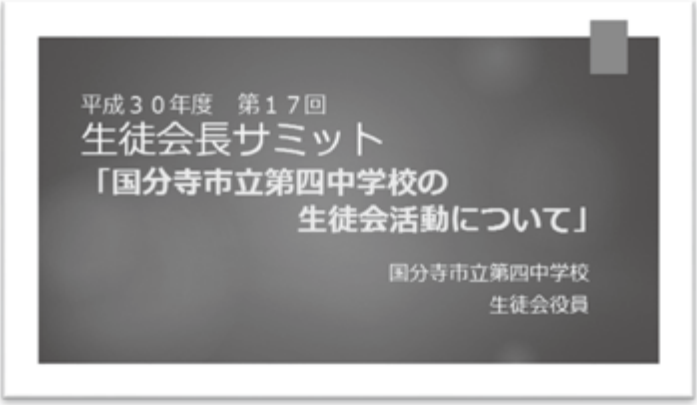
今後の取り組み

▶ あいさつ運動
⇨生活委員会と連携
大きな声で挨拶することを広める

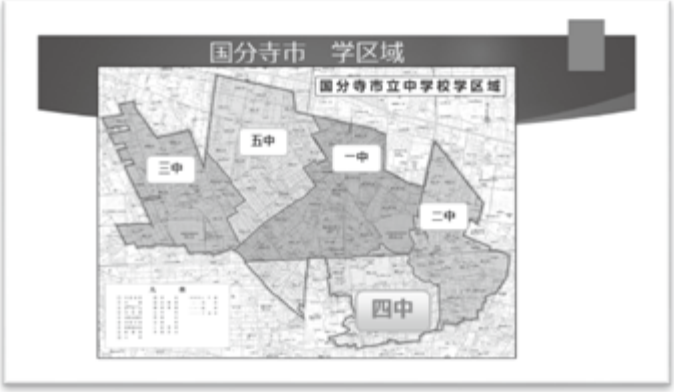
▶ クリーン運動
⇨美化委員会と連携
生徒が掃除をしていない特別教室や校庭の清掃

ご清聴ありがとうございました。

全体会発表２　国分寺市立第四中学校生徒会
【発表スライド】



学年	男子	女子	計	クラス数
1年	48	51	99	3
2年	58	49	107	3
3年	83	56	139	4
計	189	156	345	10



あいさつコンクールについて①

【目的】
①あいさつをする習慣を身につけ、生徒自身によって明るい学校を築いていくという意識をもつ。
②生徒自らが進んであいさつをすることで四中の伝統であるあいさつを強化する。
③学年を越えてあいさつができるようにする。

あいさつコンクールについて③

【実施期間】
▶平成30年6月27日（水）～7月4日（水）
計6日間（土・日を除く）
〈前期〉（6/27～6/29）
〈後期〉（7/2～7/4）

あいさつコンクールについて④

【実施内容】
▶各クラス１名審査員（無作為に抽出）によって行う。
▶審査員にあいさつをしたポイントを集計する。
▶各学年で、成績上位クラスに全校朝礼で表彰する。

あいさつコンクールについて⑤

【あいさつの評価基準】
①目を見てあいさつをする
②適切な声の大きさであいさつをする（小さいと×）
③笑顔であいさつをする
※３項目全部できて１ﾎﾟｲﾝﾄ。一つでもできていなければ０ﾎﾟｲﾝﾄ。
※校章・クラス章をつけていない場合はポイントは入らない。
（審査員が判断できないため）

あいさつコンクールの成果と課題

成果
- 学年を越えて、あいさつができるようになった。
- コンクール形式だったので、学校全体で盛り上がりながら取り組めた。

課題
- ✓審査委員が誰なのか、分からないようにするのが大変だった。
- ✓**持続して、あいさつを活発にするようにできなかった。**

四つ葉のクローバー運動

四つ葉のクローバー運動について①

▶毎月１回
▶全クラス、朝学活などで実施
▶**四中宣言**に沿って書いてもらい、その中で選ばれた意見を昇降口の設置場所に掲示する。

四つ葉のクローバー運動②

【**四中宣言**の背景】
約２０年前に四中で、いじめがありました。その時、生徒会を中心に、二度と誰も嫌な思いをしないように、またそのようなことが起こらないように、という願いを込めて、四中宣言がつくられました。

四中宣言①

【四中宣言】

① 思いやり

四中宣言②

【四中宣言】

② 助け合い

四中宣言③

【四中宣言】

③ 正　義

四中宣言④

【四中宣言】

④ 伝統・誇り

四つ葉のクローバー運動について③

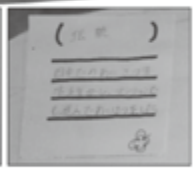
思いやり

助け合い

伝統・誇り

正義

後輩に笑顔で挨拶をすることができた。



四中でのあいさつ活動を生かし、マンションでも進んであいさつをした。

四つ葉のクローバー運動の成果と課題

成果

- 何十年も継続して行うことができている。
- 他の人の良い部分が見られるようになった。

課題

- ✓ 毎回実施していて、効果を感じることが少なくなってきている。
- ✓ **掲示する場所や、やる内容を精査する必要がある。**

２ 生徒会長サミット分科会

各分科会では、全体会の感想、自校の活動紹介、他校の活動についての質問や共通の課題についての意見交換を行った。

（１） 全体会についての感想（意見など）

＊珍しい企画があり、自校にもち帰りたい。
＊自校にない企画(目安箱の活性化のさせ方や改善点)が参考になった。
＊あいさつ運動をコンクールの形にしてやる気を出させたい。
＊あったかい言葉ポスターが印象的だった。
＊自校にない活動が発展していたので取り入れたい。同じような悩みを改善していきたい。
＊全体で６０人なので例外も多いが目安箱を取り入れたので、どう活性化するか検討したい。
＊スタンバイミーカードなどの生徒に寄り添える企画を取り入れたい。
＊あいさつ運動を活性化できていないのでコンクールの形にしていきたい。
＊同じような名前、目的であっても内容が違った。色々な角度からみて参考にしていきたい。
＊話し方が参考になった。目安箱を通していたずらを無くしていきたい。
＊四中宣言のように学校の基盤となるものがあるのはとても良いと思った。
＊四つ葉のクローバーと似たいじめゼロ宣言している。毎回違うお題を出すことを参考にしていきたい。
＊生徒の様子を活動に反映しているので良いと思った。
＊生徒同士でも不安は解けると思うので実践してみたい。生徒の自主性を求めたりする点を取り入れたい。
＊目安箱が入れにくい状況なので、練馬中のような工夫をしたい。コンクール形式は良いと思う。
＊生徒目線に立った取組をしていきたい。
＊短い期間で意見を聞くというところを取り入れてみたい。

（２） 自校の活動紹介

＊地域の活性化をするために企画した祭りでボランティアの方と交流できた。
＊生徒のみでフェスティバルを企画運営
＊仲間意識が高い、ルールが風化している。
＊ボランティア活動など地域と交流している。
＊高校との交流、蓮植え、蓮堀を地域の方と行っている。
＊社会を明るくする運動、チラシ、絆創膏を配る。
＊ユニセフ募金、落ち葉掃き、目安箱
＊小中合同挨拶、エコキャップ回収、あじみこし運動、受験応援プロジェクト
＊忘れ物ゼロキャンペーン等の協力活動
＊体育祭生徒会種目

＊いじめ撲滅運動、ＳＮＳルール作成
＊校歌歌い隊(有志と生徒会で月に１度歌う)、地域の手伝い
＊ボランティア(エコキャップ、ユニクロ服集め、ホタル育成、池の掃除)、合ったかぽかぽかプロジェクト、クリスマスツリーを出して欲しい物を貼る、七夕もクリスマスと同じように行う、平和活動
＊ノーチャイムデー(１日チャイムが鳴らない日がある)、地域清
＊国際交流、ベルマーク回収、体育館開放
＊ベルマーク回収(発展途上国に色鉛筆として送る)、ホワイトリボン運動、強化月間(月にあった目標を定める)

＊目安箱の返答の仕方(生徒会朝礼で発表、生徒会新聞に載せる)
＊あいさつ運動の仕方(委員会と生徒会で行う、クラスごとに行う、毎週水曜日に行う、小中で行う、同じ場所で行わずいろいろな場所で行う

＊Let's　try（定期考査前１週間実施）
＊三送会
＊募金活動、１日校舎お別れイベント
＊美化活動
＊地域との交流活動(イルミネーション点灯式・司会)
＊いじめ防止バッチ
＊文化祭のオープニング
＊文化祭の計画
＊いじめゼロ宣言、みんなの木（生徒全体のいじめへの思いを書く）
＊本のリサイクル
＊意見箱、各フロアー１個づつ、部活対抗リレーの運営
＊学年交流会を主催
＊授業態度向上キャンペーン
＊キャップ回収、アルミ缶回収をクラス対抗で行う、防災活動に参加

（３）自校の課題

＊スタンバイミーカードが衰退して今年できていない。
＊朝礼、教室移動が遅い。
＊ボランティアの参加率は高いがふざけている人や強制的になっている傾向がある。
＊生徒の人数が多く生徒会活動を認知されていない。
＊あいさつを返してくれる人が少ない。
＊ベルマーク回収の工夫ができていない、積極的にできていない。
＊意見箱になかなか意見が集まらない。
＊他学年とのあいさつ
＊いじめの防止
＊部長会と生徒会の関わり
＊意見箱のいたずら
＊他学年交流
＊フェスティバルを低予算で行うには
＊部活動との両立
＊生徒会誌を見てもらうには
＊目安箱の活性化
＊地域へ生徒会の活動を広めるには

（４）　意見交流、質疑応答等

＊目安箱(意見箱)の活性化させる方法
→期間限定、置き場所を変える、生徒会新聞に載せる、変な意見は無視する、数を増やす､ペンネームで書いてもらう、決定事項を決めて書く、呼びかけ、朝礼でルールを確認、見た目を興味が保てるような物にする、ポスターを作って掲示、入っていた意見の返答を掲示する、活動をするときの募集用紙を意見箱に入れてもらう、数を増やす、使用率が低い場合にアンケートを実施する、

＊不要物の持ち込みについて
→各クラスに委員会でまわって呼び掛ける、ペナルティ、
　アンケート、持ち物チェック、許可をもらう
　抜き打ちチェック、反省文、雰囲気づくり
＊楽しめるイベントについて
→階段アート、６年生に中学校紹介(部活動紹介、体験授業)、
　ＰＲ動画、寸劇、制服を見てもらう
　百人一首大会、体育館開放
＊校歌の声をもっと大きくするには
→式典の前に練習、呼び掛け、プロジェクターに歌詞を映
　す、歌う前に声だし、校内放送
　抜き打ちで歌詞チェック、皆が歌っているところを見廻って注意する

＊ボランティア活動について
→学年ごとに日付を分ける、人数制限、参加の申し込み、登校時にゴミ拾い、部活動や委員会で分担
　全日までに班を決める、清掃範囲を広げる
＊ベルマーク回収について
→保護者への呼び掛け、良い点を伝える、景品。あいさつ運動の時に回収箱、ポスター作り、箱を派手に
　する、集まった数を発表
＊予鈴遅刻者について
→ペナルティ、日直が呼び掛ける、決意表明、時間設定を早くする、あいさつ運動と兼ねて呼び掛ける
＊あいさつ運動の工夫
→ゆるキャラを呼ぶ、名前を呼ぶ、人数を減らす、あいさつしてくれた人を数える
＊新入生歓迎会について
→部活パフォーマンス、行事紹介、部活のオリエンテーション
＊くす玉
→メッセージ入りの折り紙、くす玉の中にくす玉、言葉やメッセージ、周りがクラッカーなどをする
＊あいさつについて
→ボランティアが積極的に行う、身近なところから習慣づける、ポスター、強制はダメ、友達も利用する
　自然なあいさつ劇で伝える
＊いじめについて
→ポスター、生徒会が明るくする、劇、朝礼で呼び掛ける、言葉を張り出す、標語やポスター、見つけた
　ら止める勇気、アンケートやポスター、交流の場を増やす
＊いじめをなくすには
→楽しい朝礼づくり、本日のＭＶＰ、個性を認める、生徒会が明るく、休み時間にクラスで遊ぶ、レクづ
　くり、笑えるポスター、ミニ運動会、笑顔、パトロールやポスター
＊ＳＮＳルール作成の例
→クラスに用語を各自で考えてもらいその中から代表作を決める
＊エコキャップを多く集めるこつ
→月１など集める期間の幅を増やす、朝、箱を持つ人を出す、生徒が自由に入れられる環境を作る２３
＊ノーチャイムデーを行ったときの課題は
→長期的に行わないと効果があまり出ない。

第４７回　全日本中学校特別活動研究会・東京大会　報告

１　大会主題　『新学習指導要領実施への新たな特別活動の在り方』
～様々な集団活動を通して自己有用感を高める指導法の工夫～

２　期　　日　平成３０年１１月１０日（土）

全日本中学校特別活動研究会・東京大会　開会式

３　主　　催　全日本中学校特別活動研究会　東京都中学校特別活動研究会

４　後　　援　文部科学省　東京都教育委員会　墨田区教育委員会　全日本中学校長会
東京都中学校長会　東京都中学校教育研究会　日本特別活動学会

５　会　　場　練馬区立石神井東中学校

６　時　　程　９：００　受付
９：３０　～　１０：３０　全体会
１０：４５　～　１１：３５　授業公開
１１：４０　～　１２：４５　昼食
全国理事会
１３：００　～　１４：３０　分科会発表
研究協議会・分科会講演会
＊第１分科会　学級活動Ａ分科会
＊第２分科会　学級活動Ｂ分科会
＊第３分科会　生徒会活動分科会
＊第４分科会　学校行事分科会
１４：３０　～　１６：３０　記念講演
講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課
主任学校教育官　降旗　友宏　先生

７　基調提案

大会主題　『新学習指導要領実施への新たな特別活動の在り方』
～様々な集団活動を通して、自己有用感を高める指導法の工夫～

１．主題設定の理由と特別活動のもつ役割

今後の日本は、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少、人工知能（ＡＩ）の飛躍的な進化、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は急速に変化し、予測困難な時代になると言われている。

新学習指導要領が目指しているのは、21 世紀の学校生活を、特にこれから 10 年 20 年後の世界に生きる子供たちのためによりよくしていくことであり、学校の課題を再定義し、社会に開かれた教育課程の実現を図っていくことである。この予測困難な時代の中で、子供たちが主体的に社会を生き抜き、他者と関わり合いながら、よりよく生きようとする力の育成が今まさに教育現場に求められている。

今回の教育課程の基準の改定は、次の３つがポイントとなっている。

（１）子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視する。

（２）実社会で生きて働く汎用的な資質・能力（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」）を３つの柱とし、各教科等が共有して、確かな学力の育成を目指す。

（３）道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成する。

これまでの学校教育の中で、特別活動は、多様な集団の中で、生徒一人一人がよりよい人間関係を築く力や自主的、実践的な能力を養うことに大きな役割を果たしてきた。さらにこうした能力を育成することは、生徒が学校生活を送る上での基盤となる力や、社会で生きて働く力を育むことにつながってきた。

近年の未来志向型コンピテンシーの定義や未来志向型プログラムの開発をみると、日本の特別活動は諸外国からも注目されており、我々が特別活動のもつ力やその意義をより深く理解し、新学習指導要領の改訂においてもその機能と効果を丁寧に分析していくことで、世界基準にもなり得る大切な教育活動であるといえる。

新学習指導要領において、特別活動では、これまでの教育課程上果たしてきた資質・能力について『人間関係形成』『社会参画』『自己実現』を３つの視点とし、さらなる育成を図ろうとしている。学校とはひとつの社会であり、その中での生徒のよりよい生活づくりの活動を通して、社会で生きてはたらく実践的な態度を育成することが、特別活動の教育上の役割である。特別活動で育てた力は、教科等で学んだことを汎用的な能力にまで高める役割を担っており、社会に出て実践的に働く力となること等、特別活動の教育課程上の役割がより一層明確に価値付づけられたといえる。

２．研究主題と本大会での重点

本大会では、主題を『新学習指導要領実施への新たな特別活動の在り方』とし、副主題を『様々な集団活動を通して、自己有用感を高める指導法の工夫』とした。これまで、本研究会で長年にわたり進めてきた「豊かな人間関係づくり」をもとに、新学習指導要領の実施に向け、新たな特別活動の展開を目指すこととした。

学級活動の公開授業と実践報告では、多様な個性をもった集団の中で、役割や責任をもたせ、集団活動での合意形成を図るための話合い活動、キャリア形成と豊かな自己表現を図る上での PDCA サイクルの展開を目指し、提案していく。様々な役割を担ったり、一人一人が合意形成に参画したり、豊かな人間関係づくりをもとに、協働して楽しく規律ある生活を築こうとしていく場面を意識してもたせることで、自己有用感を高める機会をつくっていきたい。教師は、生徒の自主的、実践的な活動を助長し、常に生徒自身による創意工夫を引き出すように指導していく。ここで養われる力は、社会生活の中心となる職場集団や家庭で主体的に関わろうとする態度や自己実現を図るために必要な力を養うことにつながるといえる。

生徒会活動の実践報告では、集団や社会の一員としてよりよい学校づくりに参画し、協力して諸問題の解決を行おうとする力を養わせ、地域社会での自治的な活動につながっていくための活動を提案していく。

学校行事の実践報告では、生徒が主体的に計画・運営にあたり、学年・学級集団や学年を越えた異年齢集団の中で、共通理解を図りながら自主的・実践的な活動を行うことを提案していく。地域・社会における行事や催し物など、様々な人間関係で構成される大集団の中で、所属感や連帯感を深めながら、ひとつの目標に向かって取り組むための活動につながっていく。

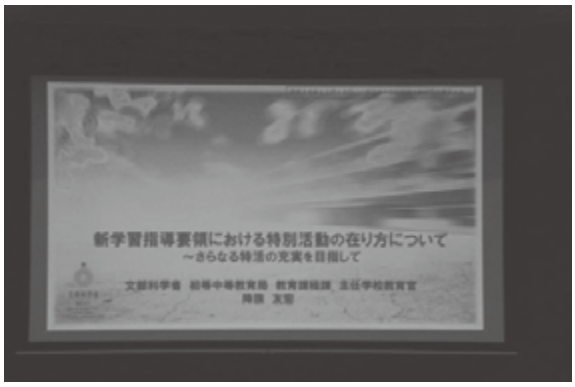
新学習指導要領で示された特別活動を実践するにあたり、集団や社会の一員として、「なすことによって学ぶ」活動を通して、具体的に中学校の教育現場で何をしたらよいか研究・検討し、有意義な実践につなげていくことがきるよう、本大会でも意欲的に情報発信していきたい。教師と生徒及び生徒相互の人間的な触れ合いを基盤とした指導をもとに、生徒が望ましい人間関係を築くことができるようになることや課題を生

徒と共に考え、共に歩もうとする教師の公平かつ受容的な姿勢や態度により、生徒一人一人がより大きく輝いていくのだということを再確認し、特別活動のさらなる発展を目指していきたい。大会主題に迫った研究成果を、皆様と達成できるようにご協力を願う次第である。

８　分科会

（１）分科会の内容

分　科　会	発　　表　　者	研　　究　　主　　題
第１分科会Ａ 学級活動	神奈川県 横浜市立中川西中学校 教　諭　山田　真也	掲示物を通した「クラス形成」と「キャリア形成」 ～自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく学級活動～
＜分科会講演会＞　指導・助言者　東京女子体育大学・短期大学　教授　美谷島 正義 先生		
第２分科会 学級活動Ｂ	練馬区立石神井東中学校 主幹教諭　藤本　謙一郎	これからの社会を生き抜くための資質・能力を育成する学級活動 ～様々な集団活動を通して磨く資質・能力～
＜分科会講演会＞　指導・助言者　東京音楽大学　特任教授　関本　惠一　先生		
第３分科会 生徒会活動	大田区立大森第六中学校 教　諭　茂谷　厚	「SDGｓの達成に向けた学校教育の取組」
＜分科会講演会＞　指導・助言者　文教大学　教授　米津　光治　先生		
第４分科会 学校行事	国分寺市立第一中学校 校　長　後藤正彦 教　諭　小松　咲	学校行事における指導と評価の一体化 ～ルーブリック評価を取り入れた事前・事後指導を通して～
＜分科会講演会＞　指導・助言者　帝京大学教育学部長　教授　和田　孝　先生		



（２）分科会の報告

第１分科会　学級活動Ａ（記　録）

【研究主題】

掲示物を通した「クラス形成」と「キャリア形成」
～自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく学級活動～

発表者	神奈川県横浜市立中川西中学校	教諭	山田　真也
講　師	東京女子体育大学・短期大学	教授	美谷島 正義 先生
司会者	東京都東村山市立東村山第三中学校萩山分校	主幹教諭	伊木　文枝
記録者	東京都江戸川区立小岩第三中学校	主任教諭	加藤　拓人

１　研究のねらい

新たな出会いに対して不安を抱える生徒に対して、学級掲示物の作成を通して生徒同士のコミュニケーション能力を高めていくこと。

２　研究の方法

（１）課題の発見と確認
（２）課題に対する解決方法の話合い
（３）課題に対して話し合ったことの実践
（４）課題に対しての振り返り（検証）

３　研究のまとめ

入学時に新しい学校生活に慣れることや様々な集団活動に参画して、人間関係を築くことなどは、学級の生徒全員が協働して取り組んでいかなければ解決できない問題である。だからこそ、担任の意図的、計画的なガイダンスやカウンセリングが大切であり、安定した環境において、生徒一人一人が自分らしさを発揮して活動し、自らの生き方や将来に対する夢や希望を膨らませ目的意識を明確にすることができる、心の居場所となれるような学級づくりが大切である。また、新年度に２年生となり、別々のクラスになっても１年生の時の成功体験によって各クラスで生徒が自発的、自治的な学級の生活づくりを実感できる取り組みとなった。

４　他県の先生からの質疑・応答

〈鹿児島県〉

Ｑ．意図的、計画的にガイダンスやカウンセリングには、学級掲示物以外にどのような実践を行ったかあれば知りたい。

Ａ．キャリアパスポートのような振り返りシートを作成し、どんなことでもよいので、月１回は振り返る時間を設けた。提出に関しては、集めるタイミングなどは決めておらず、月１回であればよいとして取り組んだ。

Ｑ．合意形成を図るうえで、トラブルは生じなかったか。

Ａ．今回を通しては、大きなトラブルはなかった、閉鎖的な空間よりも居心地の良いクラスを作ることも目標とした。

〈愛知県〉

Ｑ．想いを共有するのはいいが、話合いに参加しなかったり活動に消極的な生徒がいたりする場合には、どのようにやる気を引き出していけばよいか。

Ａ．皆（学級）のものは何でも全員で話し合って決めていくようにする。すると互いの意見や意思を尊重し、個人の思いから全体へと意識が変わっていった。また、教師側が他を認めさせる声掛け（意見をないがしろにしない）なども有効的である。

Ｑ．掲示物を作ることで、その後の授業中や生徒間の関係はどう変化したか。

Ａ．学級目標からクラスの「合言葉」が生まれた。他者を認めるようになり、次の年もやってみたいという意見が多数でてきた。他クラスの先生方も実践したいと声があがった。

〈千葉県〉

Ｑ．何を作るのかで合意形成を図っていると思われるが、目標を決める部分と振り返りの部分のどちらに合意形成を図る先生の意図が含まれるか。

Ａ．合意形成を図るうえで、「多数決」の決定はしない。「目標を決める」ことと「振り返り」の時間は目的を

別として、時間を設けた。ただし、学級活動の時間が限られていると思うので、放課後の 10 分などちょっとした時間に活動を行った。

〈東京大学〉

Q．「書く」ことに不安を感じている生徒はいるはずですが？

A．不安な生徒は、たくさん書いている人の意見などを見て、真似をするようになると考えている。また、話合いには「聞く」という作業もあり、メモなどを取ることも重要。さらに、できた作品を「視る」ことで、ゆっくりと振り返ることができると考えた。

【指導助言】　東京女子体育大学・東京女子短期大学教授　美谷島　正義　先生

1　特別活動の目標の比較～学習指導要領の大きな改定に伴って～

特別活動の充実は生徒の学校生活において大きな「潤い」を与えてくれるものである。その学びの中で、生徒の心の中に「頑張ろう」「やってみよう」という意欲が高まっていくものである。また社会に開かれた教育課程の中で、キャリア形成が重要な位置として捉えられている。特に 3 つの柱とされている「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」である。これらは特別活動としての「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」の成長が、「学びに向かう力・人間性」の育成に繋がっていくと考えることができる。

掲示物の作成を通しながらクラス形成に関わっていくことで、個性の伸長や社会性の育成は十分に意味があるものである。また、人間らしい生き方の中には自己実現も含まれるため、こういった内容は、特別活動を要としつつ学びを深める必要性がある。つまりはキャリア教育には、学級を作っていく中で、自分の成長と自分らしい生き方を発見していくことや、それぞれのキャリア形成と自己実現に繋がっていくように指導計画を作ることが大切である。

2　特別活動の内容構成と構造

発言力や意見をまとめる力は、学年経営の計画が重要性を占めている。学校行事を成功に収めるためには、学級経営がまずはベースとなる。

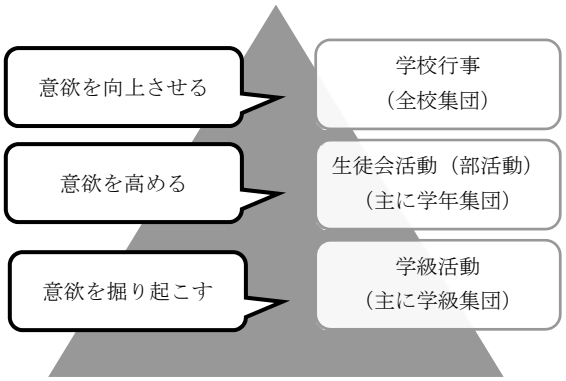
①課題の意識化・明確化

②課題解決のための活動（ここが活動の生命線）

③－１集団決定

③－２個人としての態度決定

個を集団に埋没させないようにするためにも、自発的・自治的なアプローチを仕掛けることも大切であり、それらには特別活動を指導するための教師力が必要である。

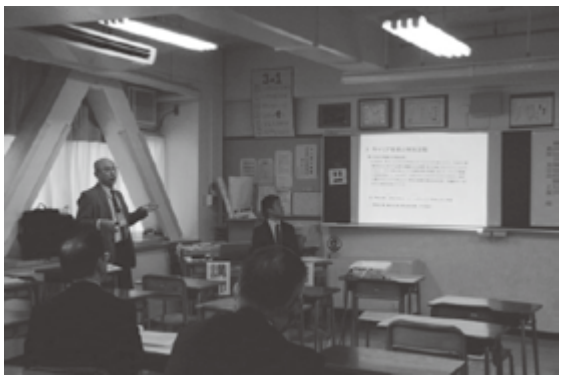


3　今後の課題として

①各学校で計画されている年間指導計画から、どの場面で指導に当てはめるべきかなど計画の位置付けを考えていかなければならない。次年度からは、生徒が自発的に「やってみよう」という意欲が育つようにする。

②学年計画と学級経営の関係性をしっかりとする。特に学年主任から各学級への相談や方向性。

③キャリア教育充実の視点から、継続することと発展の見通しをもつこと。



4．最後に…

①特別活動を熱心に取り組めば生徒が生き生きとしている。

②特別活動は、「望ましい集団作り」と密接に関係している。

③これは教員も同じことが言える。

第２分科会　学級活動Ｂ（記　録）

【研究主題】

これからの社会を生き抜くための資質・能力を育成する学級活動
～様々な集団活動を通して磨く資質・能力～

発表者	東京都練馬区立石神井東中学校	主幹教諭	藤本　謙一郎
講　師	東京音楽大学	特任教授	関本　惠一　先生
司会者	東京都江東区立有明西学園	主任教諭	有川　直志
記録者	東京都江戸川区立松江第一中学校	教諭	小野　貴史

１　研究のねらい

与えられた課題ではなく学級生活における課題を自分たちで見いだして解決に向けて話合い活動を行える生徒を育てていくこと。

２　実践報告

（１）話合い活動はクラス全員での話合いも行うが、小集団での話合いを主として行っている。
（２）小集団の話合い活動では、ジグソー法やワールド・カフェ手法を行っている。
（３）話合い活動中のエチケットを作成している。
（４）生活班や短冊を活用したり、コの字型での話合いを活用して行うこともある。

３　成果と課題

３年間を通じて、多様な集団活動で自主的・実践的な話合い活動を行ってきた。その結果、生徒たちは自分たちの諸問題についてよく話合い、解決するための方策を練ることに長けてきた。また、楽しい学校生活を送るためのアンケートＱ－Ｕ調査でも数値が向上している。不登校生徒数も３年間を通じて３名程度に収まっている。さらには、「任せることのできる生徒」が増えていることを実感している。教師の指示を待つのではなく、自ら考え行動できる生徒が増えているので、行事などでは教師の想像を超える行動もみられる。このように新たな価値の創造をたくましく進め、よりよい学校生活づくりに励む生徒集団になってきている。

課題は二点ある。１点目は、学年全体での学級活動を推進したので、学級ごとに議題や題材を設定した学級活動を行えなかったことである。もっと学級独自の議題や題材で学級活動が行われると生徒にとってより現実的な生活における諸問題を解決できたのではないか。

２点目は、小学校で行われている「学級会」の形での学級活動の実践をすることが出来なかった。小学校で培った話合い活動を中学でどのように昇華させることができるのか、今後は連携を深めて、取り組んでいく必要がある。

○質疑応答

Ｑ．ジグソー法を活用して学級全体での意見交換で合意形成が図れているのか。
Ａ．まずは話合い活動の楽しさを味わってもらい、その中で生徒をほめることで合意形成をはかる。
Ｑ．リーダーを育てるのに大切なこと、大変だったことはなにかあるか。
Ａ．大切なことは、生徒に任せることが必要である。大変だったことは、教員の考えを超えた発想が出ることがある。
Ｑ．普段から一人一人に意見をもたせるための手立ては何かあるか。
Ａ．普段から自分で選ぶことをさせていて、それを継続することで自分の意見をもたせている。

【指導助言】　東京音楽大学特任教授　関本　惠一　先生

○今後の教育の在り方

・社会に出たあとも学び続け、新たに必要とされる知識や技術を不断に身に付けること。
・仕事以外の時間を創造的、生産的に過ごすための学びの機会を提供する。
　→社会に出た後も、誰もが「学び続け」夢と志のために挑戦できる社会へ
・社会全体で学びを支援→生涯学習

○これからの授業で身に付ける力⇒『<u>アクティブ・ラーニング</u>』

・いろいろなものをしっかりと見、考え、想像することができる。
・他人の意見をしっかりと開き、判断し、自分の意見をもつことができる。
・自分の意見をしっかりと発言することができる。

○特別活動の特質
☆「集団活動」
様々な集団 ⇒ 生活経験の豊かさ

望ましい人間関係を形成するために必要な資質・能力、所属する集団の改善向上をめざす態度、人間としての「在り方」生き方を探求し、**自己を生かす**能力や態度が養われる。

○学級での特別活動
☆学校生活を送る上での基礎的な生活の場⇒学習の場、生活の場、人間を磨く場
☆学級活動
・学校生活の充実と向上
・生徒が直面する諸課題への対応

「学校に」おける「家庭」

○特別活動がめざす中心的な目標
⇒自主的・実践的な態度の育成
・自分たちで決めた目標の達成をめざし、現実に即して実行可能な方法について考えながら着実に遂行する態度
・児童、生徒による自発的、積極的な取り組みを通して、個々の児童、生徒に自分への自信をもたせる。

○特別活動の成果
1995 年の阪神・淡路大震災の後、被災者たちが、地震発生以前は近所付き合いもあまりなかったのに、被災後の厳しい状況では、負傷者の救援や援助物質の分配などについて驚異的な協調性と集団マネージメント能力が発揮された。

第３分科会　生徒会活動（記　録）

【研究主題】

「SDG s の達成に向けた学校教育の取組」

発表者	東京都大田区立大森第六中学校	教諭	茂谷　厚	
講　師	文教大学	教授	米津　光治	先生
司会者	東京都練馬区立開進第三中学校	主任教諭	吉田　義和	
記録者	東京都江戸川区立小岩第三中学校	主任教諭	田中　識啓	

１　主題設定の理由
「夢と希望を与える課題解決能力」をテーマに研究を始め、その際にユネスコスクールに加盟した。ユネスコスクールでは、持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development、以下 ESD）の視点に立った学習指導を中心に教育活動を展開している。そして、国連で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals、以下 SDGs）を達成するための資質・能力を育成し、学校全体の活動に位置づけ、ESD を推進していくという方向性を得るに至った。

２　実践概要
（１）環境とのつながり
①ホタル復活プロジェクト
②清掃ボランティア
③大岡山駅前花壇整備活動

（２）平和とのつながり
①平和を考える会
ア　防空壕の発見
イ　「平和の歌」作成
ウ　「平和かるた」を作ろう
②あったかぽかぽかプロジェクト
（３）世界とのつながり
①フードプロジェクト

３　成果と課題

ボランティア組織が発足した当初、学校の状況は現在と大きく異なり、問題行動に対する生徒指導が頻発するような状況があった。ボランティア活動は、このような中で、教員と生徒が何か一緒に活動にあたることができないかという声から生まれたものである。はじめは校庭の落ち葉はきから始まった活動は、ESD という指針、SDGs というゴールをもつことによって、様々な広がりをもつことができた。その結果、生徒の地域や社会への関心が全国や東京都の平均値より高く、また、地域や社会のために何をすべきか考えている生徒が多くいた。

また、毎年実施している ESD アンケートの結果から、集団における自分の役割を自覚し、主体的に活動に取り組むことができる生徒が増えていることがわかった。このように、学校だけでなく地域や社会に活動の場を広げることが、生徒の自己有用感やより積極的に社会や世界に関わろうとする内発的動機付けにつながっていると考えられた。校内でのボランティア活動に始まり、地域、そして世界へと活動の場を広げ、SDGs の達成という大きな目標を共有することによって、地域や世界の人々とつながることができた。

４　研究のまとめ

ユネスコスクールに加盟して活動を継続させる中で、地域とのつながりができ、地域が「屋根のない学校」として位置付けられた。そして、その中で生徒は、地域の方々の「ありがとう」という言葉や温かさにふれ、自己有用感を高めていった。そして「もっと誰かの役に立ちたい」という思いとともに、学校から地域へ、地域から世界へと目を向けるようになり、生徒は活動の幅を広げていった。現在、落ち着いた教育環境の中で、生徒は授業、行事、そして、特別活動の中で意欲的に活動し、学ぶことができている。それは、ESD に関する様々な活動を通して、学ぶことへの意義を感じ取っているからだと考えられる。それぞれの学校と地域の特性を生かした多様な取り組みが全国に広がればと願っている。

５　質疑応答

Ｑ．農園隊の結成の経緯とその規模
Ａ．学校が荒れていた時代、荒れた環境にうんざりしていた生徒が教員と生徒が一緒に何かやろうと考えたのが始まりでその際に名前はなく「ボランティアしてみようか」「学校をよくしようか」といった感じから始まった。その後、人数が増えてきて農園隊と命名した。活動ごとに希望者が農園隊として活動するため生徒全員がなることができる。
Ｑ．ユニクロの講師を呼ぶのは毎年なのか。また、その費用はいくらか。
Ａ．講演は毎年１年生対象に行っている。講演料については担当が異なるため不明。
Ｑ．マスコットキャラクター「ボラピー」ができた経緯とぬいぐるみや着ぐるみの作成方法について。
Ａ．ボランティア活動をもっと盛んにしたい。そのためにはマスコットキャラクターがいたほうが親しみがもてるのではないかということで作り始めた。ストラップなどは最初生徒が作っていたが新入生に渡すことになり業者に頼むことになった。ぬいぐるみに関してはビーズクッションをもとに家庭科の教員と生徒が作成した。看板や着ぐるみも教員と生徒が協力して作成した。
Ｑ．参観されている先生方の学校でこのようなマスコットキャラクターがある学校はありますか。
Ａ．PTA のキャラクターで北中なのでハトをモチーフにした「キタポッポ」がある。PTA の広報誌や撮影許可腕章などに使用している。
Ａ．小中交流が盛んで小中学校の生活委員が中心となって活動しているが、その際に「挨拶運動」のマスコットキャラクターを作ることになり、小中学生にイラストを募集した。そして、中学校の中央委員会、小学校の児童会、PTA、民生委員、地域の役員が参加して「子供と大人の学校会議」を開き、マスコットキャラクターを選んだ。「あいさつじょーず」「あいさつちゃん」はクリアファイルや学校の掲示物に活用している。
Ｑ．様々な活動が始まった経緯、生徒主体なのか、教員主体なのか。教員主体であれば生徒の自主性を引き出すための手立てを教えてください。
Ａ．洗足池清掃は生徒が主体で始まり、参加者が増えていった。花壇清掃は教員が地域に提案した。あったかぽかぽかプロジェクトは生徒からやってみたいと声が上がった。「平和かるた」や「平和の歌」は教員からこういうのをやってみてはと投げかけた。生徒と教員がお互いに提案しあっている。様々な交流も実施してい

くうちに連絡をいただいて引き受けていっている。生徒たちが海外と交流してみたいというよりは来たからやってみようという形で始め、「やってみてよかった」、「こういうこともできるかな」と発展していった。ユネスコ委員会でも「今こういう問題があるので学校として取り組んでみたらどうですか」という意見が出たり、こういうことがやりたいので生徒会役員に立候補しますという生徒が出たりした。

Ｑ．アンケートの結果から「地域や社会のために何をすべきか考えている生徒が多くいる」ということですが、１００％にするための手立てはありますか。

Ａ．様々な活動をしてくれているが、課題は部活との兼ね合いで参加できる生徒が決まってしまう。そこで、部活で参加するように調整などをしている。教員の参加を増やすことも課題で、参加している生徒にとって教員にみられると頑張ろうという気持ちになるので、教員の意識も活動に向ける必要がある。

Ｑ．生徒会の話し合い後、どのように全体に呼びかけや意識付けをしているのか。

Ａ．告知などは生徒会・学級委員・農園隊に最初に話を下ろし、準備を行う。その生徒からクラスで告知をしてもらったり、ポスターを作成したり、給食時の放送で呼びかけたりしている。

Ｑ．生徒や担当の教員が全体への声掛けや意欲の向上のためにどのように取り組んでいるのか。

Ａ．放課後、部活とぶつかってなかなか集まることができない。行事が多いため昼休みなども他の集まりとぶつかって集まれないことが多い。そのために、早い段階で教員に活動を周知し、準備におけるタイムマネジメントの管理を行うことが大変である。活動に関わるテーマを授業などで取り上げ、関心・意欲を高めるように教科を越えて取り組んでいる。

Ｑ．「平和の歌」「平和かるた」の作成期間と授業をどの程度使ったか。

Ａ．時間はかかった。「平和の歌」は夏休みの課題として出し、１１月の平和の日に間に合うように２カ月ぐらいで作成した。その間も他の行事があるため放課後などになかなか集まれない。授業では扱っていない。

【指導助言】　　文教大学教授　　米津　光治　先生

本日の発表で注目すべき点の１点目は、発表校の取り組みが、活動が多様でそれが新学習指導要領で現代的な課題として位置付けられていることを取り上げていることである。今日の発表は、ほかの学校が現代的な課題を取り上げて取り組む際、学校がどのように取り組んでいくのか、そしてそのことがどのように発展し、どのように系統を持って広がっていくのかを示す、一つのモデルとなるのではないか。ただし、１つの課題を取り上げて取り組み始めても、成果が出るまでに時間はかかる。しかし、１つの課題から始まり、活動の幅を広げ今のスタイルを作り上げた取り組みはぜひ参考にすべきである。

２点目は、多様な活動を行っていることである。今回の発表内容は、活動が多様なため、生徒会の枠に納まらない。今日のこの内容は生徒会活動の中に納まるのだろうか。生徒会活動というものをどのようにとらえるか改めて考える必要がある。こういう多様な活動を行うためには、「いつ」、「どんなふうに」、「だれが」、「どう関わるか」が重要である。これまでは生徒会活動という言葉があるため、生徒会役員や既成の委員会を中心とした活動が生徒会活動と捉えられてきた。しかし、今日の活動は、生徒会や委員会だけではなく部活動やボランティアなど様々な集団が関わっているからこそ多様な活動が可能になっている。学校にある様々な組織が有機的に関わりながら活動し、その連絡・調整を生徒会が担っていることが多様な活動を可能としている要因である。そして、新しい活動を行うためには新たに組織を立ち上げる必要がある。これは各学校の状況に応じてプランニングをしていかなければならない。

３点目は、多様な活動を可能とする集団作りである。この集団は、校内の生徒だけの集団に留まらず、様々なつながりの中で地域や企業、環境団体などとつながることで、生徒たちが社会に触れながら活動している点が素晴らしい。このような生徒の活動が校風づくりにつながったり、学校の伝統になったりしている。そのためには、マスコットキャラクターのネーミングや様々の仕掛けが生徒の主体性や積極的な関わりを促すための大きな役割を担っている。

今回の発表校のような活動をなぜしなければいけないか。それは、学習指導要領の改訂に伴い「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す必要があるからである。「社会に開かれた教育課程」とは、中央教育審議会答申（平成２８年１２月）で「…様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら、自分を社会の中でどのように位置付け、社会をどう描くかを考え、他者と一緒に生き、課題を解決していくための力の育成が社会的な要請となっている。」と記され、そのような生徒の育成を学校は求められている。そして、「社会に開かれた教育課程」は学校だけの論理では実現できない。そこには、社会の思いや願いを受け止めながら、中央教育審議会答申に記されている生徒を社会と連携して育てていく必要がる。そのような社会を実現するために、学校では次の３つの資質・能力を育成する必要がある。

①知識及び技能の習得
②思考力、判断力、表現力の育成
③学びに向かう力、人間性等の涵養

今回の学習指導要領の改訂では、上記の資質・能力の３つの柱について、すべての教科や領域を整理している。そして、この学力を身に付けさせるための学び方が「主体的・対話的で深い学び（いわゆるアクティブ・ラーニ

ング)」である。
「社会に開かれた教育課程」において育てたい子ども像は次のように示されている。

「どのような課題に遭遇しても決してあきらめることなく、かといって一人で背負い込むことなく、多様な人と関わりコミュニケーションを取りながら、よりよい解決策を見出していこうとする」生き方に向かって歩もうとする社会人の育成

これは、予測不能な課題が起きてもあきらめず、その課題に一人ではなく、そして日本人やアジアの人々だけではなく世界中の人々と協力して取り組む必要がある。そのために、対話的な学びを通して、様々な人とコミュニケーションを取る能力を育成し、世界の人々とつながりながらあるいは様々な世代の人々と関わりながらよりよい解決策を見出すことができる人間の育成が学校に求められていることである。

環境教育については、１９６０年代にジェームス・ラブロックによる「ガイア理論」の提唱が始まりである。「ガイア理論」とは地球を１つの生命体と捉える考え方で、それによってそれまで別々の課題として捉えられていた様々な地域の課題を、地球全体の課題と捉え解決策を地球全体で考えていくことが環境教育である。日本でも１９９３年に環境基本法を作り、世界に足並みをそろえて環境問題に取り組むようになった。

特別活動と環境教育の関わりについて考えると、まず、特別活動は自主的、体験的活動を重視している。したがって、ただ学ぶのではなく体験することが大切であり、環境教育においては環境の中でどのように生徒を教育していくかが重要となる。そして、環境の中で様々な地域とつながりを持つことも大切である。このような取り組みは今日的な課題の解決に繋がっていく。ただ、特別活動といっても現実的には学級活動、生徒会活動、学校行事、総合的な学習の時間における活動、教科の授業などが、それぞれ固有のねらいをもって活動し、それが相互に連携し、補完しあっている。したがって、環境教育のような取り組みは特別活動だけで切り取るのではなく、それに関わるような教科や学級活動、生徒会活動でどのように取り上げるかを考え、有機的な連携が必要である。

体験的な活動は、ただ体験させればよいのではなくいくつかのステップがある。１点目は、フィールドでの体験による気づきを喚起するような働きかけをどのようにするかである。教育活動である以上、活動の中から何を学んだかが重要である。２点目は、生徒が興味・関心をもち、知識を得て、深める活動である。新しい活動やもっと違う活動へ活動の広がりを求めたときには、そのために必要な知識を獲得する指導が大切である。教員が計画するのではなく、時間がかかっても生徒に一定の知識を獲得させながら新たな活動につなげていく指導が必要である。３点目は、環境問題を例に挙げるならば、地域の環境に留まらずより広く世界の環境についても評価する能力をつける活動である。活動を振り返るとともに、今持っている知識を総動員して、また、仲間と協力しながら自分たちの地域の環境について、自分たちで一定の評価ができるような指導が必要である。４点目は改善につなげる活動である。体験活動をして、そのことの振り返りや評価をし、計画をどのように改善するのか、それぞれの段階においての指導が単なる体験で終わらせないために必要である。

特別活動には様々な活動があるが、活動の中心は「話合い活動」である。事前・事後での話合い活動は今までも重視されてきたが、活動中の話合い活動では生徒同士だけではなく世代を超えたコミュニケーションも含まれるので、そこでの話合い活動も重要である。特別活動の話合いでは事前・事後だけではなく活動中の話合いにも留意した特別活動を行ってください。

特別活動で育てる力は、多様な集団と多様な活動を通して育てていく必要がある。そのためには、できるだけいろいろな集団が必要となるが、既存の集団だけでは対応しきれないので、必要に応じて必要な組織を柔軟に作ることができる学校になることが活動の多様性を確保するために大切である。

これからの特別活動の活動を通して大切にしてほしいことは「年少者・弱者への配慮」である。これからの社会は自国ファーストでは成り立たない。これからの日本では、物質では豊かさを求められず、幸せを感じることは難しくなってくる。そうなったときに、「自分が他者のために役に立っているとか、他者の喜びを自分の喜びと捉える。」そういう国や社会を目指す必要がある。これからの社会の中でこのような国や社会を作るならば、年少者・弱者への配慮という視点、すなわち誰かの役に立つという視点が特別活動の中で今まで以上に大切にされる必要がある。

これから子供たちが社会に出たとき、ますます一人では解決・達成できない課題が出てくる。そのときに、誰かから協力・応援してもらわなければならない場面が来る。それならば、小学校・中学校で「自分が何かに貢献したり、何かに献身したり」するような姿勢を促すことが特別活動の中で重要となる。

第４分科会　学校行事（記　録）

【研究主題】

学校行事における指導と評価の一体化
～ルーブリック評価を取り入れた事前・事後指導を通して～

発表者	東京都国分寺市立第一中学校	校長	後藤正彦	教諭　小松　咲
講　師	帝京大学教育学部長	教授	和田　孝　先生	
司会者	東京都江戸川区立小松川第三中学校	主幹教諭	原　奈都子	
記録者	東京都狛江市立狛江第一中学校	教諭	桒原　美絵	

１　研究のねらい

⑴　生徒の資質・能力の育成

⑵　指導をする教員の意識の焦点化

２　研究方法

⑴　教員側の作成した実施要項の目標と、生徒が作成した行事の目標それぞれを分析し、生徒実行委員を中心にルーブリックを作成する。

⑵　ルーブリックを事前に生徒全員に周知し、行事を通してどのような成長を目指すべきかを共通理解させる。また、現段階での自分を振り替えさせる。

⑶　感想を記述させるアンケートに代えて、事後にも実施することにより、自らの成長や行事の充実度を確認させる。

３　研究のまとめ

『為すことによって学ぶ』という特別活動の特質を踏まえつつ実践をしていても、効果を効率的に活用できずにやりっぱなしに陥りがちな現状があり、それを改善すべく、活動の振り返り（リフレクション）に注目した実践を進めた。今回の研究で、体験学習サイクルを基に生徒個々が自らの課題やめあてを明確にし、行事に取り組み、成果を確認するというサイクルを築くことへのきっかけを見つめられたと感じている。また、特別活動や学校行事の中で、どのような資質・能力を育めるのか、育んでいかなければならないのかを改めて考えることができた。今後の課題として、ルーブリックを使用して、生徒の現状を確認し、めあてをつけさせ、事後の自分の伸びを知る流れの中で、集計が大変なので、マークシート形式を取り入れることで、作業の軽減化を図ることが挙げられる。

○質疑応答など

Ｑ．実行委員が評価を考えて行うのは良いと思った。実行委員はどういう生徒で構成されているか、人数は何人か。

Ａ．各クラス男女１名ずつ（学級委員）１年生のときは、実行委員を募っていた。

Ｑ．原案はどの程度教員が作成しているのか。

Ａ．ルーブリックの内容について教員が提案している。質問の中身は生徒が考えた。

Ｑ．評価が終わった後の活用法は。

Ａ．実行委員が集計し、生徒の成長がわかるようにカルテを作りたい。
『現状→今→終わって』を三年間積み上げる。

Ｑ．修学旅行について、東京の子どもは関西のことをどう捉えているか。

Ａ．知っていることと見たことの違いが面白いと感じている。国分寺と京都・奈良の歴史で似ていることころや違うところに興味をもっている。

Ｑ．ルーブリックについて教員間で話合い活動を行っているか、教員の意識はどうか。

Ａ．話し合い活動は活発ではない。

Ｑ．教員は評価をどうやって使っているのか。

Ａ．全体の結果を学年で使っている。個人の結果は今のところ使っていない。

【指導助言】　　帝京大学教育学部長教授　　和田　孝　先生

集団活動について

日本の特別活動は、海外で評価されている。特別活動の中で集団を大切にしていて、集団の規範とは何かを具体的に学校の中で指導しているからではないか。

特別活動の評価について

特別活動の評価や学校行事において育成される資質・能力には色々あるが、各学校の教育目標を押さえて、どのような資質・能力を育てたいか考えて取り組むとよい。

ルーブリックについて

評価する項目を、基準からなるルーブリック表を使って評価を行う。

ルーブリックから、コミュニケーション力，思考力，表現力，協動力が生まれる。

ルーブリックを個人評価，全体評価のどちらか片方だけではなく、個人評価と全体評価の両方を評価するとよい。個人評価と全体評価の両方が合わさってルーブリックの効果が出る。個別評価と相対的な絶対評価を合わせもつような工夫をしていただきたい。

ルーブリックのような評価が重視されている背景

一人一人がどのような資質・能力をもっているのかを自分自身で実感し、周りの人が認めてくれているということが大事である。特別活動で定められている資質・能力をどう評価していけばよいのかが、大きな課題になっている。ルーブリックは、それを具体的な形にしていき、評価することができる。

ルーブリックで大切なこと

学習の過程が大事で、最初に自分が今どういう状態なのかを理解してから活動が終わった後に評価をし、自分の成長を認めていく。

９　記念講演

「新学習指導要領における特別活動の在り方について」

～さらなる特活の充実を目指して～

文部科学省初等中等教育局教育課程課　主任学校教育官　降旗　友宏　様

（１）　今回の改定と社会の構造的変化－社会に開かれた教育課程の実現－

・今後の学習指導要領改訂に関するスケジュール
・次期学習指導要領改訂に向けた検討体制
・学習指導要領の変遷
・人口の推移と将来人口
・生産年齢人口の推移
・Society５．０とは
・産業構造の変化に伴う職業の変化
・学習指導要領改訂の背景
・学習指導要領改訂の考え方
・教員の年齢構成の変化
・これからの教育課程の理念

※加速度的に変化する社会の中で、「生きる力」の育成を目指し積み重ねてきた学校教育の意義や成果をどのように可視化し、幅広く共有していくか？

（２）　育成を目指す資質・能力－主体的・対話的で深い学びによる授業改善－

・学習指導要領改定の方向性
・育成を目指す資質・能力の三つの柱
・主体的・対話的で深い学びの実現(「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善)について(イメージ)
・「言葉による見方・考え方」について

・「社会的な見方・考え方」について
・「特別活動の見方・考え方」について
・学習指導要領(平成２９年３月３１日公示)における「目標」及び「内容」の構成

（３）　カリキュラム・マネジメントー教育課程を軸とした学校教育の改善・充実ー

・カリキュラム・マネジメントの３つの側面
・課題の焦点か
・カリキュラム･マネジメントの充実に向け、課題となる項目の例
・高等学校学習指導要領(平成３０年３月３０日公示)における「カリキュラム･マネジメント」に関する記述
・学習指導要領(平成２９年３月３１日公示)における「第１章　総則」の構成

（４）　特別活動の改善の方向性
・特別活動の特質「集団活動」「実践的な活動」
・新学習指導要領「特別活動」改善の方向性
・中学校学習指導要領「学習過程」
※学級活動(１)における学習過程(例)
※学級活動(２)(３)における学習過程(例)
※生徒会活動における学習過程(例)
※学校行事における学習過程(例)
・特別活動の学習過程「意思決定」「合意形成」
・学習指導要領「特別活動」改善の方向性
・特別活動固有の「視点」
・特別活動の目標
・「絆づくり」と「居場所づくり」の違い
・「絆づくり」のカギは「自治的な活動」
・学級活動(１)「話合い活動」の充実を　　・調査「若者はなぜ離職するのか」
・学習指導要領「特別活動」改善の方向性　　・特別活動の特質「現在及び将来」
・「キャリア教育」特別活動全体を要として　　・学習指導要領総則「キャリア教育」
・自信がなく、参画意識が低い中高生　　・特別活動の内容の改善

（５）　生徒の現状把握①「学習意欲の喚起」
・国際数学・理科教育動向調査(TIMSS２０１５)の結果
・ＴＩＭＳＳ２０１５
※理科を勉強すると、日常生活に役立つ　　※数学を勉強すると、日常生活に役立つ
・ＴＩＭＳＳ２０１１「前回調査では・・・」
・我が国の学校教育の定着
・２８年中教審答申「教科等を学ぶ意義」　　・新テスト(大学入試)試行問題(Ｈ２９．１１)
・新テスト(大学入試)作問の方向性

（６）　生徒の現状把握②「不安解消」「自己肯定感の情勢」
・島根県立隠岐島前高等学校
※島前高校の存続の危機　入学者が１２年間で約３分の１(７７人→２８人)
※変わったのは・・・　　※ホームルーム活動の充実
※丁寧な「見取り」「対話」　　※多面的・多角的評価とは・・・
※「こんな卒業生になる」
・１８歳人口　１９９２年：２０５万人→２０４８年：７４万人
・社会構造の革新的変化(IOT・AI の影響)

（７）　特活を要としたキャリア教育
・２８年中教審答申「教科等と往還する」
・各教科での学びをつなぐ
・事前・事後の誤解
・特別活動が要に
・特別活動で学年・校種をつなぐ
・佐賀市立芙蓉小中学校
※学級活動（３）「一人一人のキャリア形成と自己実現」
※芙蓉校メソッド(具体的方策)
※教科等の特質に応じて　教科横断的で
※帰りの会で「個人」「短期的」なまとめ、紡ぎを
※学級活動（１）「学級や学校における生活づくりへの参画」
※特別活動を要としたキャリア教育の充実
※小２「がんばるぞカード」から「学級みんなで」
※キャリアパスポート
・中学校学習指導要領特別活動編
・秋田県のキャリアノート
・「今ある宝」を持ち上がるために「再編成」

（８）　特活で資質・能力を養う
・中学校学習指導要領「特別活動の目標」
・２８年中教審答申「資質・能力」
・大阪府高槻市立第四中学校（＋２小学校）
※校区で育みたい資質・能力
※ゴール「つながる力」をみんなで共有
※誰が目指すゴールなのか
※「評価を拒む」目標設定とは
※具体的な目標(資質・能力)の設定
・新潟市立白新中学校

（９）　（参考）カタカナの落とし穴に注意
・学習指導要領総則、特別「カウンセリング」
・日常の対話の中にあるカウンセリング
・無理はしない、しかし、無意識はありえない

10　参加者の感想

【全体会】

○新学習指導要領実施に向けて、学び合い、子どもたちの未来につながる大会というお言葉に身が引き締まる思いです。子どもたちが自己有用感をもち、社会で個性を発揮し、生き生きと活躍できるよう指導するにあたって特別活動の意義を強く感じました。
○基調提案の全容やつながりがややわかりにくく感じ（時間もあったので）もう少し詳しく具体的事例も混ぜつつお話いただきたかったと感じました。
○研究の主旨がよくわかった。スライドが感動的だった。
○あいさつは一人でよいのでは（主催者)。時間があまった。
○ＤＶＤが長年の研究とその熱をよく伝えていました。
○よかったです。基調提案などとても分かりやすく、見やすかったと思います。特活の意義・目的・どのような視点でアプローチしていくのかがわかりやすかったです。
○熱のこもった基調提案に勇気をもらいました。「特活が大切」と思っているのは自分だけじゃない、と再確認できました。パワポの図については、あらかじめ入れておいていただけると嬉しいです。
○吉川先生の基調提案の中で、これから先１０年、２０年後の世界に生きる子供たちのために、その資質を向上させるべく、指導していかねばならない事をあらために感じた。藤本先生作成ビデオはこれまでの取組の積み重ねと準備等のご苦労と子どもたちの生き生きとした表情がにじみ出ていてよかった。お疲れ様です。

【授業公開】
○生徒の表現力が大変素晴らしかったです。これまでの特別活動の積み重ねを感じました。
○生徒の力で学級活動がどんどん進んでいく様子がすばらしいと思いました。全員が話合いに積極的に関わり参加し楽しんでいるので、あっという間に時間が過ぎていると感じました。
○（ジグソー形式）生き生きとした生徒の表情、活動で５０分があっという間でした。自校にも良いところを取り入れ、改善していきたいと思います。
○非常に勉強になった。生徒一人ひとりが問題意識をもって取り組む姿に感銘を受けた。
○中学３年生のレベルの高いものが見られた。特に学級委員の動かし方などにすごさを感じた。次は完成型ではなく、生徒の成長過程（１，２年）では、どんな取組をしているのか見たい。
○積み重ねの素晴らしさを感じられる生徒の姿に感動しました。中学校３年間で身についた力が将来どのように生かされるのか楽しみですね。
○生徒が主体的に自分たちの力で学校を創ろうという熱が伝わる授業でした。３－４司会の女の子が振り返りで話した言葉に石東中生としての誇りと将来を見通す力を感じすばらしいと感じました。
○個人の考え→小集団→学級という段階を経て、考えが深まり、話合いが有意義なものになっていくという実践を見せていただきとても参考になりました。継続した取り組みの大切さや集団を育てることの維持を感じ、見応えのある授業でした。
○入学した時から鍛えられた生徒たちのすばらしい学活だった。学級委員の司会も全体の雰囲気にも感動した。（委員どうしが廊下で打ち合わせしてそれぞれもどっていく姿がすごい）。ジグソーの話合いもその後の全体の検討も、一人ひとりが意志を、意見を、ためらいなく相手に伝えることができていた。他者もそれを受けとめ、返していた。クラス全体に自己有用感がひろがっていた。帰ってどれだけできるかわからないが、考えたい。実践したい。
○同一の指導案での５クラスの授業、とても参考になるとともにおもしろかったです。ありがとうございました。
○３年間鍛えた生徒たちだけあって話合いの仕方が定着し発表が堂々としていた。
○子どもたちの生き生きと活動する姿が見られてありがたかったです。今日だけでなく、ここ数年にわたる実践の積み重ねに先生方のご苦労があったのではと思うことでした。
○生徒主体で活発な話合いが行われていてすごいと感じました。
○学級委員の姿がすばらしかったです。積み重ねが大切なことがわかりました。
○子どもたち一人ひとりが真剣に課題に向き合い、自分の意見をきちんと言えていた。各グループでリーダーが記録を写しまとめるなどの役割分担もできており、よく鍛えられ育っていた。特に学級委員の運営は素晴らしかった。３年間かけてよく指導されて育ってきている印象。素晴らしいです。
○いつも活動を行っている様子がわかり、刺激になりました。生徒たちだけで、あそこまで活動させるにはかなり綿密な準備が必要だったと思います。先生方の協力体制がうらやましいです。
○３年１組の授業を拝観しましたが、学級委員と班長のリーダーシップがしっかりしていて、今、何をすべきか、どうまとめるのかなど、よく理解していた。そのため、ジグソー法での話合い活動も、その後のまとめ活動も意見が活発に出ていて素晴らしかった。３年間の仕込みと実践と振り返りの成果だと思った。相手の意見を聞く態度も身についていて、話合いのエチケットもできていた。
【分科会発表】
＜学級活動Ａ＞
○教員と生徒との信頼関係がなければ学級経営は成り立たないと感じた。
○掲示物の意義などがわかってよかった。
○学級経営としての掲示物作成という事例報告が素晴らしいと思いました。学級だけでなく学年、学校として掲示物が活用される可能性を感じました。
○教師の熱い思いが生徒を変える。一人一人の生徒の力を伸ばすために、私も日々挑戦していきたいと思いました。
＜学級活動Ｂ＞
○熱の伝わる発表で、意欲、パワーをいただきました。丁寧な準備と“任せること”それができる。積み重ねが大事ですね。
○発表者の先生のこれまでの細やかな実践や指導準備やまとめなどとても勉強になりました。本当にご苦労様でした。また、指導助言をいただいた先生、話が分かりやすく、これから学年がどう生きていけばいいのか、社会の変化に対応する力をどうしてつけていかなくてはいけないのかが大変よくわかった。
○大変示唆に富む内容で大変勉強になりましたし、明日の活力のもとになりました。数字にならないものは評価しない、関心をもたない風潮のある昨今だが、また実践を重ねようと思いました。
○子供たちの姿が見えてくるような実践提案でした。協議会の時間をもう少しとれるとよかったかもしれません。

○藤本先生の生徒を思う情熱が伝わってきました。１年生のときにどんな生徒に育てていきたいかを学年職員で話し合って決めたというお話の通り「３年間でたくましく生徒が成長し、任せられる子どもたちです」と言い切れるまで立派になった生徒さんの学活を見せてもらった後だったので、なおさら聞き入ってしまいました。ありがとうございました。
○３年間（卒業時）を見据えて教員の意識を高め、生徒に“任せる”ことの大切さがよくわかりました。先生も含め生徒が楽しんで学級活動に取り組み、自己有用感をもって生き生きと活動している姿がとても印象的でした。少しでも自校で生かせるよう努力したいと思います。ありがとうございました。
○具体的な実践の話を聞かせていただき大変勉強になりました。先生が楽しそうに話をされている姿が大変印象的でした。
○具体的な取り組みを聞き参考になりました。
○藤本先生の実践報告、Ｈ２５年度の懐かしいワールドカフェの映像があって昔を思い出しました。その後も研究実践を重ねて、今日の授業につながっているのだなと改めて思いました。私は今年１学年なので３年後を見据えて、先生の実践を参考にさせていただきながら、自分の学校の特性に合った活動をしていこうと思いました。関本先生の進路指導の内容を踏まえた特別活動の意義も大変参考になりました。学級活動＝席替えではいけないことを他の教員にも伝えます。
＜生徒会活動＞
○多様な活動に生徒が主体的に取り組んでいて大変勉強になりました。また、学校内だけでなく地域や外国との交流など、様々な集団とのつながりの中でこそ、生徒は深く広い学びを得ていくのだと改めて考えさせられました。
○本校の取組を知っていただくとともにたくさんの質問もいただき光栄でした。これからもよりよい活動を目指していきたいと思います。ご講評、ご指導いただきました米津先生ありがとうございました。本日の発表に携わってくださった先生方、ありがとうございました。
○活動が多様でつながりがあり、自主的、体験的であった。時間や人のやりくりを考え、自校なりに実践したい。
○盛りだくさんの活動をされていてすごいなあと思いました。
＜学校行事＞
○ルーブリックによる評価、振り返りの特性や課題について学びました。学年、学級に取り入れていこうと考えました。
○発表後にたくさんの助言をいただき、有意義なものになりました。
○つたない発表に対し、あたたかいご指導、ご助言をいただきました。貴重な機会をありがとうございました。
○非常に参考になりました。もどって学校運営等に活用します。
○評価、参考になりました。
【記念講演】
○新学習指導要領について、改めてこれからの社会を生きる子どもに求められる資質・能力を育み高めるために、特別活動の果たす役割は大きいなと感じました。集団の中で、一人ひとりが生かされるような活動を通して自然と「合意形成」「意思決定」がなされるよう指導する教員の力量が試されてくると思うので、学校に戻って同僚とも大いに話し合い、学び合って、よりよい教育活動に結び付けられたいと思いました。
○改訂のポイント、学校を取り巻く社会的課題について、見識を深めることができました。実例がとても役に立ちました。
○学習指導要領の改訂を丁寧に解説してくださった上に特活への応用を話してくださり、とても勉強になった。
○どのような取り組みがあるか具体的な例示があり、わかりやすかった。
○新学習指導要領や多くの事例についての講演ですごいボリュームの情報量でした。たくさんの資料をしっかりと読み取りたいと思います。
○大変勉強させていただきました。具体的事例、キャリアパスポートの状況等をもう少し学びたかったです。
○新学習指導要領で求められている特別活動の在り方についてわかりやすく教えていただき、特に、後半、ワークショップを混じえたお話では聴く姿勢も変わり、「主体的な学び」の大切さを身にしみて感じました。ありがとうございました。
○学校全体だけではなくクラスの運営にかかわる特別活動について知ることができてよかったです。具体的な事例も多く見せていただき参考になりました。
○将来を担う「人」を創る仕事だということを再確認した。
○他教科、他校種と連携した特別活動を展開していけるように頑張りたいです。
○特に後半、興味深く聞かせていただきました。ありがとうございました。
○後半の事例が省略されたのが残念でした。
○学習指導要領について再確認できた。

○大変参考になる内容でした。多くの資料に感謝します。
○これからの生徒には特活はとても重要な活動になると改めて感じました。今日の講演での内容をヒントにまたがんばりたいと思います。
○事例がわかりやすく参考になりました。もっと聞きたかったです。
○今回の学習指導要領が大変よく分かった。改訂で何が変わったのか、また、何を社会の実践で求められるのかが分かった。
○時間が足りなかったのが残念でした。実例の方をもう少し見たかったです。私としてはレジュメの目標設定が最も参考になりました。（すぐに職場にフィードバックします。）
○理念や具体的な事例などたくさんの情報を紹介していただいて、すべてを吸収できたかはわかりませんが、今日の授業や分科会での発表内容、そして、現任校での自分の実践活動と照らし合わせて考えることができました。他の教科等とも連携してカリキュラムマネジメントしていかねばならないことが分かったので今後自校でどのように実践していくべきか考えたい。

平成 29・30 年度国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業「特別活動」の公開授業・研究発表会　報告

1 月 28 日（月）、京都市立春日丘中学校にて、平成 29・30 年度国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業「特別活動」の公開授業・研究発表会が行われました。研究主題は「あたたかな心をもちながら、地域に貢献できる生徒を育成する特別活動～春日丘フェスティバルを通して～」です。「春日丘フェスティバル」とは、近隣の小学 1・2 年生や保育園の園児、高齢者介護施設の方を招いて行われる文化祭です。生徒はキャストとして小学生たちを連れて歩いたり、「お客様参加型イベント」を企画することで小学生たちを喜ばせたり、「人のために」という生徒会スローガンを具現化する行事となっています。

公開授業では、1・2 年生の学級活動が公開されました。内容は「学級活動（3）ウ　主体的な進路の選択と将来設計」で、テーマは「行事と話合い活動で身に付けた力～なりたい自分になるために～」でした。今回は 2 年生の授業を参観させていただきました。はじめに、学級委員が司会を務め、本時の活動のテーマが伝えられました。そして、スライドショーを見ながら 1 年間の振り返りを行い、今日の活動がこれまでの総括であることを皆に意識させていました。

その後 10 分間、個人で「話合いをしなかった時と話合いをした時、何が違ったのか（つけた力）」について考え、まとめました。次にグループで意見交換し、ホワイトボードと付箋を活用して班での合意形成を行いました。最後に、各グループのホワイトボードを黒板に貼り、代表者が発表を行いました。まとめとして、ワークシートに「こんな自分になる宣言！」として、個人目標を設定して終わりました。

春日丘中学校では、「運動会」「春日丘フェスティバル」「合唱コンクール」を通して話合い活動を行っていました。そして今回の公開授業は、話し合って取り組んだ行事で得たことを振り返り、将来の自分に活かす、という活動でした。生徒たちは活発に自分の意見を延べ合い、何が身に付いたのかをよく話し合っていました。特に全体発表では級友の意見をよく聞き、自分たちのよさをしっかり確認し合っている様子がありました。

授業後には研究発表が行われました。まず春日丘中学校の研究主任より、研究概要の説明がありました。春日丘フェスティバルの様子が動画で流れ、キャストとして小学生を優しくリードしており、その経験から生徒が上級生としての責任感を強く自覚していることが振り返りアンケートに書かれていました。

次に国立教育政策研究所教育課程調査官生徒指導・進路指導センター総括研究官の長田徹先生より講演がありました。講演内容は「特別活動を要としたキャリア教育の推進」です。今回の公開授業が学級活動（3）であるように、「キャリア教育の推進」を中心とした特別活動の講演でした。参加者が生徒役と教師役に分かれてロールプレイを行いながら、「キャリア教育の要」という特別活動のあり方について、分かりやすく説明していただきました。また、「キャリア・パスポート」の活用について大分県の実践例が紹介されました。大分では「自分を知ろうカード」というワークシートを使い、生徒は小学校から中学校、そして高等学校へと自分のキャリアの積み上げを行っているそうです。小学校の時に記入したシートを進学先の中学校に渡し、中学校で書き足します。さらに進学先の高等学校にも渡し、そこでも書き足すそうです。紹介された話では、ワークシートの「中学校に進学するにあたり、不安に思っていることを書いてください」の欄に記入があれば、小学校の先生からの回答はもちろん、進学先の中学校の先生からも回答をもらい、生徒の不安を解消する小中の接続を図っているそうです。また、中学校 1 年生の終わりには「入学してくる後輩へ」という内容でメッセージを書き、1 年前不安に思っていた自分がどのように成長したのかを実感させる活動も行っていました。

その他に、立命館宇治高等学校の実践も紹介されました。「なぜ働くのか、学ぶのかを考える授業」という授業で、50 分で 3 回「なぜ働くのか」「なぜ学ぶのか」という質問を繰り返すそうです。当然、3 回の質問の間にはある仕掛けがあります。1 回目は何の前提もなく質問するのですが、2 回目の質問の前に「もしサモアで働くとしたら」という前提を加えます。サモアの課題やサモアの人のインタビューを聞くことで、2 回目の質問に対する回答が個人の視点から社会の視点へと広がっていくそうです。そして、3 回目の質問の前に「サモアをよりよくするために」という社会貢献の視点を加えることで、最終的な生徒のキャリアの視点がとても高いものになったという話でした。

2 年間に亘る研究の発表から、新学習指導要領を踏まえた特別活動のあり方を学ばせていただきました。特に学級活動（3）に注目した研究で、たいへん参考になりました。学級活動（3）は小学校でも取り組む内容となっています。そして年度内には文科省が作成した「キャリア・パスポート」が配布されます。キャリア教育の要としての特別活動について、本研究会でもさらに研究を深めていきたいと思います。

（文責：練馬区立石神井東中学校主幹教諭　藤本謙一郎）

調査研究報告

「平成３０年度　東京都教育研究員（特別活動）研究発表会」

日　時　平成３１年２月１５日（金）

会　場　葛飾区立常盤中学校

２月１５日（金）　葛飾区立常盤中学校にて、平成３０年度東京都教育研究員中学校特別活動部の研究発表が行われました。５時間目は１年１組で授業公開があり、その後研究発表でした。

今年度の研究主題は「自己実現のために必要な資質・能力を高める学級活動の工夫～自他のよさを認め合う話合い活動を通して～」で、研究仮説は「生徒が学級における自己の生活上の課題を、自他のよさを認め合う話合い活動を通して自分事として捉え、課題の解決に向けて自己のよさや可能性を生かして実践できるようになれば、自己実現に必要な資質・能力が高まるであろう」でした。特別活動が目指す生徒に身に付けさせたい力の「人間関係」「社会参画」「自己実現」のうち、「自己実現」に焦点をあてています。また、「学級目標」を柱として、１年間に３回検証授業を行っていました。１回目の題材は「学級目標の実現のために、学級のために実践することを決めよう！」で、２回目の題材は「学級目標の実現のために、実践したことを中間で振り返り、互いのよさを認め合おう」でした。そして３回目になる今回は、題材を「学級目標の実現　今までの活動を確認しさらなる向上を目指そう」とし、学級活動（２）アの授業が行われました。

授業は学級委員が司会進行を努める生徒主導型で展開されました。活動の開始では、学級委員が活動の意義を語り、生徒全員で目的をつかむようにしていました。「学級の達成度」を可視化した棒グラフが掲示され、学級委員が「何％でしょうか？」と尋ねると皆が口々に数値を答えていました。可視化された棒グラフを学級委員が上手に伸ばしたり縮めたりして、最後に「７０％でした！」と答えると、「おぉー！」と全員から拍手が上がりました。さらに学級委員が「１００％ではなく１２０％を目指しましょう！」と言うと、折りたたんで隠してあったメーターの最大値を１２０％まで広げてみせるといった演出までありました。生徒が自分たちで工夫した仕掛けだったそうで、こういった活動も学級活動ならではの面白さであると思いました。

次に個人思考の時間です。ワークシートを使って、「クラスの増えてきたよいところ・改善点・増やしたい行動」を書き出していきました。これまでも同様の取組をしているので、一人一人が静かに考え、書き出していました。

その後班編制を変え、ワールドカフェのようにメンバーがバラバラな班を編成して、「友達のよいところ探し」を行いました。班編制を変えた理由は、いつもの生活班とは違うメンバーから自分の評価をもらうことで、互いを認め合う活動が活発になるように工夫しているからだそうです。「よいところ探し」は付箋に１人２枚「メンバーのよいところ」を記入し、渡してあげていました。それを見ながら自分のよさに気付き、照れくさそうにしている生徒や意外そうにしている生徒がいました。付箋はワークシートに貼り付け、学級活動掲示コーナーに掲示するそうです。これまでの検証授業で行ったワークシートもすべて貼ってあり、いつでも、だれでも振り返りができるようになっていました。

次に元の生活班に戻り、「学級目標の達成度を１２０％にするためにさらに必要な行動」について話し合いました。ここでは、個人の考えを挙げながら班のメンバーでの合意形成を行い、班ごとに取り組む行動を１つ決めていました。決まった内容はホワイトボードに記入し、黒板に掲示していました。すべての班のホワイトボードがはられたところで、各班の代表者が発表を行いました。発表の前には、学級委員から「ただ単に書いたことを発表するのではなく、理由も説明するようにしてください」と指示がありました。まるで先生が行うような指示ですが、今回の学級活動では学級委員が班での話合いに参加しておらず、常に全体を俯瞰して必要な助言を行う立場として活躍していました。時に質問を受けたり、時に進行を促したり、上手にクラス全体の状況を把握して

進行を行っていました。自分たちの学級を自分たちで創っていく、そのリーダー役として立派な行動を見せてくれました。

まとめの活動では、個人目標を作成しました。その後、活動全体を振り返り、学級委員２人から活動の様子についてまとめの話をしてもらい、最後は担任の話で学級委員の活動についても振り返りがあり、全員でがんばったことに対する評価があり、授業は終わりとなりました。

今回の検証授業では、研究主題にある「自他のよさを認め合う話合い活動」の部分がよく強調されていたと感じました。一人一人が主体的に話せる話合い活動を行うことで、生徒同士の人間関係も深まります。そうして「互いに安心して過ごせる学級」をベースに、「このクラスの一員として実現していくこと」を考える授業として「自己実現」を目指していくことを生徒に求めていました。研究のまとめとして行われた授業として、しっかりとまとまっていました。

研究発表では、１年間の研究の流れと成果、課題について発表されました。学習指導要領にあるように、ＰＤＣＡサイクルを元に学習過程を形づけたことや教材開発として「短冊」「掲示物」「ワークシート」「ポートフォリオ」を活用していることが挙げられました。

検証授業としての成果は、①互いに認め合う関係が深まったこと②学級の課題に意識が向くようになったこと③主体的に課題を解決する意識が高まったことの３点が説明されました。

研究としての成果は、①自己実現に必要な資質・能力について②ねらいや意義の示し方の工夫について③話合い活動を充実させるための工夫について④評価や振り返りを積み重ねることの工夫についての４点が説明されました。

課題としては、①「自己実現」、「人間関係形成」、「社会参画」の視点を踏まえた実践の継続②身に付けさせたい力・目指す生徒像に基づく長期的な実践③各教科等における話合い活動の充実④リーダーを育てつつ、日常生活の中でできる取組を考えた実践⑤「自分のよさ」を生かした活動の充実の５点が説明されました。

以上をもって、研究発表が終わりました。詳細については、今後各校に配布される報告書をご覧ください。

最後に、講師の青木由美子先生（小平市小平第五中学校校長・本研究会会長）から指導・助言と「新学習指導要領先行実施の現状とその課題」についての講演がありました。指導・助言では、「板書にねらいが書かれているとよい。」「最後に机配置をコの字型にして学級全体で合意形成を図ってもよかったのでは。研究のねらいと研究授業のねらいは違っていたのかもしれない。今回は学級活動（１）イであったようにも思う。」という話がありました。講演では、新学習指導要領に則った「全体計画」「年間指導計画」の説明、キャリアパスポートが年度内に配布されること、「生徒指導提要（文科省平成 22 年 3 月作成）」の説明、小平第五中学校生徒会サミットでの人権標語作成の実践についての話がありました。

以上をもって、研究発表会は終わりとなりました。研究員の皆さん、１年間の研究本当にお疲れ様でした。今後も特別活動の充実を目指して、がんばってください。

（文責　練馬区立石神井東中学校　藤本　謙一郎）

検証授業

【第１回】

ア　本時の活動のテーマ

「学級目標の実現のために、学級のために実践することを決めよう」

（内容項目：（２）　ア　自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成）

イ　本時のねらい

・１学期を振り返り、学級目標に基づく個人実践の成果と課題を把握し、２学期に実践することを学級や個人で決定することで、自他のよさを生かした学級生活を築こうとする態度を育てる。

・話合い活動を振り返り、自他のよさを互いに認め合うことで、自主的によりよい学級生活を築こうとする態度を育てる。

ウ　本時の展開

	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価方法
活動の開始10分	1　本時の活動について 学級委員の話 （目的や進め方）	・学級委員に活動の意義や流れを説明させる。 ・学級委員が活動の意義を自分なりに考えて伝えることで、その意義が生徒全体に伝わるようにする。	
活動の展開 30分	2　振り返りアンケートの分類と分析 ・アンケート結果の配布 ・アンケートの分類 ・アンケートの分析 3　その原因となる行動を考える 4　学級のために自分のよさをいかして、実践することを決める。	・１学期末に実施したアンケートの結果を班ごとに配布する。 ・アンケート項目 「自分のクラスのよいところ」 「改善した方がよいと思うところ」 ・学級目標の４つの視点に分類する。 ・班長を中心に、班全員が自分の意見を言うことができるようにする。 ・ホワイトボードを使用し、意見をまとめる。 ・班長が司会をする。 ・書記と発表者を班員から決める。 ・どんなよい行動があったのか、どんなよい行動が足りなかったのかなどを考えさせる。 ・２学期を通して、自分のよさを生かして個人で実現可能なこと、学級のためになるよいことを考えさせる。	【思考・判断・実践】 ・学級の一員として互いの意見を尊重しながら、よりよい行動について考え、理由を示して意見を述べている。 ・学級での集団活動の向上に関心をもち、意欲的に自分の考えをまとめたりしている。
活動のまとめ10分	5　本時の活動を振り返る ・学級委員のまとめ ・担任の話 ・感想の記入	・学級委員より活動の振り返り、２学期の意気込みについて話をする。	【知識・理解】 ・よりよい学級の生活づくりのための話合い活動の仕方を理解している。

エ　資料等

オ　検証授業を終えて

(1) 生徒の様子

・生徒の感想を見ると、多くの生徒が「自分たちのクラスについて、真剣に考えることができた」、「班員の意見に対して自分の意見をしっかり言えていた。」という内容を記入していた。

・自分たちの意見を吟味したり、班活動でお互いの考えを伝え合ったりすることで、自分のよさをどういった行動で生かせることができるのか考えられるようになったようだ。

(2) 指導の工夫

・活動のねらいについて生徒が理解を深め、活動を充実させるためには、学級委員が自分の考えを伝えることへの指導や班活動時による教師の介入が重要であることがわかった。

・話合いのときに「アンケートの分類」などの作業を入れることで、班員全員が参加しやすく、意見がいいやすい環境を作ることができた。

・生徒が本時を振り返る際に「本時の活動における仲間のよかった行動」を意識させることや、その振り返りを生徒全体に共有させることを繰り返し行うことで、自他のよさを認めることが普段よりできてくると考えられる。

検証授業

【第２回】

（１）題材　「学級目標の実現　中間の振り返りをしよう」

学級活動　（２）ア　自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成

（２）題材設定の理由

２学期も中盤を迎え、学級目標を基に実践を行ってきた個人目標について中間の振り返りを行う。

（３）指導のねらい

学級目標の実現に向けて、生徒が立てた目標に基づく実践成果を互いに認め合う活動を通して、学級において、生徒一人一人が自己実現を図ろうとする態度を育てる。

（４）学級活動（２）の評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
よりよい学級の生活づくりに関心をもち、話合い活動に自主的、自律的に参加しようとしている。	学級の一員として、互いの意見を尊重しながら、よりよい学級目標について考え、理由を示して意見を述べている。また、意欲的に自分の考えをまとめたりしている。	学級目標を達成することの意義や、学級集団として意見をまとめる話合い活動の仕方を理解している。

（５）展開の過程

ア　事前指導と生徒の活動

日時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
10 月 5 日（金）（事前指導）	事前アンケートの実施	学級委員にアンケートの実施目的である個人目標の実施状況について説明する。	
10 月 10 日（水）（事前指導）	事前アンケートの集約	学級委員に、本時に集計結果を発表させる目的が、学級に所属する生徒一人一人の課題解決につながっていることを説明する。	
10 月 11 日（木）（事前指導）	学級委員に学級活動の司会に向けて事前指導を行う。	学級委員を通して、生徒一人一人が学級目標や個人目標を振り返らせることで、互いのよさを認め合うことができるように伝え、発表させる。	・学級の一員として互いのよさを認め合い、意欲的に自分の考えをまとめ、伝えることができる。

イ　本時の指導と生徒の活動

（ア）本時の活動のテーマ

「学級目標の実現のために、実践したことを振り返り、互いのよさを認め合うことで自分のよさを生かした実践につなげよう。」

（イ）本時のねらい

・２学期の学級目標と個人目標に向けて実践した個人の活動を振り返り、自他のよさを認め合う活動を通して、自己の理解を深め、学級活動に自己のよさや可能性を生かそうとする、自主的、実践的態度を育てる。

（ウ）本時の展開

	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価方法
活動の開始10分	1　本時の活動について ①　学級目標の振り返り（アンケート発表）、学級で増やしたい行動の確認 ②　個人が実践の評価をする。 ③　班活動で互いの実践の評価と学級目標実現に向けた互いの実践の評価を行	・学級委員にアンケート結果の発表、振り返りの意義や活動の流れを説明させる。 ・学級委員が活動の意義を自分事として考えて伝えることで、その意義を学級全体に伝わるようにする。	【関心・意欲・態度】 個人目標を振り返り、よりよい学級の生活づくりに関心をもつことができる。 〔ワークシート〕

	う。 ④ 他者からの評価を受けて、再度、自己のよさについてまとめる。 ⑤ さらに学級をよくしていくために、個人目標を見直し、再確認、追加、修正等を行う。		
活動の展開 35分	2 学級の目標の振り返り掲示物を用い、学級目標実現に向けたキーワードを確認し、ワークシートに書き込ませる。 3 個人が実践の評価を４段階で行う。 4 互いの実践の評価を生活班の班活動で取り組む。 5 他者からの評価を受けて、再度、自己のよさについてまとめる。 6 さらに学級をよくしていくために、個人目標を見直す。	・「行動の振り返りシート」を配布し、増えるとよい行動、続けたい行動のキーワードを学級委員が読み上げ確認していく。 ・班のリーダーを中心に、互いの自分のよさを認め合えるようにする。 ・自分のよさを基に設定した目標と実践したことを発表させ、友達が肯定的に評価することで、それぞれが学級で取り組んだ自分のよさを班で共有できるようにする ・他者からの評価を受けて、気付けなかった、意識していなかった、自分のよさに気付かせる。 ・２学期の後半に実現可能なこと、学級のためになるよいことを考えさせる。	【思考・判断・実践】 ・学級の一員として互いのよさを認め合い、意欲的に自分の考えをまとめ、伝えることができる。 〔ワークシート〕
活動	7 本時の活動を振り返る	・学級委員より活動の振り返り、２学期の今後の意気込み	

のまとめ5分	8　指導者によるまとめ	について話をする。 ・本時を基に、学級全体に向けて今後の一人一人の意欲を高めるために、実践に関する成果と課題を伝える。	

ウ　本時の指導上の工夫

・活動の意義を明確にし、生徒に伝わる工夫

学級委員が活動の意義について、説明できるように事前指導を行い、生徒が主体的に取り組めるようにするとともに、ワークシートや掲示物を工夫することで、視覚的にイメージをとらえられるようにする。

・話合い活動を活発にすることの工夫

互いのよさの認め合いが円滑に、活発に行えるように、班を作り、個々に振り返る時間を多く取る。また、学級をよりよくするために取り組んだ自分の実践を基に、生徒一人一人が自分のよさに気付かせるようにする。

・ねらいに即した評価を行い、積み重ねていく工夫

本時は学級の課題を生徒が主体的に発見・確認し、解決方法を話合うことで、生徒自らが実践する目標を設定し、実践したことについての中間の振り返りの場面である。評価は教師からの評価だけではなく、自己評価、他者評価を含めた３段階の評価を行うことで、生徒一人一人が自分の実践から自己のよさを理解できるようにしていく。

(1)資料等

※ワークシート

※学級掲示物　～学級をさらによくするために～

(2)検証授業を終えて

行動の振り返りワークシート

１年　　組　　番　氏名（　　）

①2学期の個人目標を振り返り、今までの自己評価を4段階で行いましょう。

A・・・・・かなり当てはまる　　B・・・・・まあまあ当てはまる

C・・・・・あまり当てはまらない　D・・・・・全く当てはまらない

目標：	評価：

②学級をよくするキーワードを書き、それに対する自己評価を4段階で行いましょう。

③友達からの評価を枠内にふせんで貼ってもらいましょう。※書いた人は名前を書くこと。

学級をよくするキーワード		自己	友達からの評価
例	明るい		
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

自分のよさをまとめよう。
これからの２学期で取り組む目標を考えよう。

第１回検証授業の本学級で行った際に出た意見を集約した資料

1年5組のよいところ・増やしたい行動

よいところ	増やしたい行動	自分のクラスのために実践すること
明るい	あいさつの声をそろえよう	班のみんなで話し合ってうまくやっていく
大きな争い事が起きない	いろんな人と話をしよう	休み時間2～3分前に着席する
面白い	落ち着きのある空間を作ろう	班長として班で意見交流できるようにする
学級目標を守っている	オン・オフをはっきりしよう	発言を多く積極的にする
気軽に話せる	帰り学活で係の人が持ち物を言おう	発言をすることを頑張る
行事で協力・団結	口数を増やそう	忘れそうなものを連絡ノートに書く
行事などでとても努力している	交流を深めよう	発言をできるときはする
元気	自信を持って発表しよう	忘れそうなものをノートに書く
授業中静か	自分で発言するという意識をもとう	積極的に発言する
真剣に授業に取り組む	集中して取り組もう	忘れ物をしない
生徒が先生と気軽に話せる	授業中は静かにするという意識をもとう	ルールを守る
団結力がある	授業中は真剣に協力しよう	休み時間の間に次の授業の準備をする
男女の差が少ない	準備を早くしよう	うるさい時は注意をし、協力する時はする
とても明るい	積極的な人間になろう	班を今よりもっと楽しくする
仲がいい	積極的に発言や行動をしよう	もっと多くの人と話す
班活動をしっかりしている	外に出れない時は静かにしよう	1時間に1回発言する
本気を出すとすごい	男女で話す機会を増やそう	積極的に取り組む
みんながいつも笑っている	テンションの高い人を班に入れよう	友達にやさしいところを活かし、友達が嫌な気持ちにならないようにする。
みんなが仲が良く協力できるところ	班で話をふろう	
メリハリがあること	周りが注意しよう	積極的に発言をし交流を深める
休み時間と授業の切りかえができる	みんなで声をかけよう	メリハリをつける
休み時間など仲良くしている	メリハリをつけよう	むだ話をしない
休み時間はとても元気	もう少し静かになるよう呼びかけよう	班のために積極的に行動する
やる時はやる	もう少し積極的に発言できるように努力しよう	忘れ物をなくして授業に積極的に取り組む
	もっと多くの人と話そう	忘れ物をしない
	休み時間に2～3分前に着席しよう	積極的に話したりする
	休み時間の間に次の授業の準備をしよう	周りがうるさかったら注意する
	休み時間の使い方を考えよう	走ってる人を見たら注意
	ルールを守ろう	忘れ物を減らす
	忘れそうなものを連絡ノートに書こう	口数を増やす
		みんなやさしかったです
		明るく元気で仲良いことは継続して、騒がしすぎず静かにする
		積極的に発表する
		授業中沈黙がある場合、盛り上げられるようにしていく。
		大きな声であいさつする
		メリハリをつける
		人のために自ら取り組んで行きたい
		係の仕事を自分からやる
		声が大きいから積極的に発表する

平成３１年2月１５日（金）

平成３０年度東京都教育研究員研究発表会資料

小平市立小平第五中学校
青木由美子

新学習指導要領先行実施の現状とその課題

１　はじめに

２　平成３０年度東京都教育研究員の研究発表会から

＜研究主題＞　自己実現のために必要な資質・能力を高める学級活動の工夫
～自他のよさを認め合う話合い活動を通して～

〇自己実現のために必要な資質・能力とは
〇生徒の現状と課題
〇学習過程の明確化
〇検証授業と研究成果
〇生徒の変容と教師の評価

３　新学習指導要領のおける特別活動の課題（指導計画の作成にあたっての配慮事項）

（１）特別活動における主体的、対話的で深い学び

（２）全体計画と年間指導計画

（３）学級経営と学級活動

（４）生徒指導と特別活動

（５）学習過程の明確化

（６）連続した学び（小学校での学習経験を生かす）

（７）キャリア教育

（８）特別活動の評価

（９）特別活動の記録の蓄積

H31.2.15
東京都教育研究員特別活動部会研究発表会資料
小平市立小平第五中学校長　青木由美子

特別活動の目標について

＜何を学ぶか＞
集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ
※「見方、考え方」⇒どのような視点で物事を捉え（視点）、どのような考え方で思考していくのか（考え方）」

＜どのように学ぶか＞
様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して

各教科等における見方・考え方を総合的に働かせて、集団や社会における問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己実現に関連付けること

学級活動
生徒会活動
学校行事

活動の意義を理解し積極的に取り組もうとする態度

「望ましい集団活動を通して」の具体化

様々な集団活動を通して集団や個人の課題を見いだし、解決するための方法や内容を話し合って、合意形成や意思決定をするとともに、それを協働して成し遂げたり強い意志をもって実現したりする生徒の活動内容や学習過程

＜何ができるようになるか＞育成を目指す資質・能力（３つの柱）

(3)学びに向かう力、人間性等
自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う

指導上の３つの視点
・人間関係形成
・社会参画
・自己実現

(1)知識及び技能
多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにすること

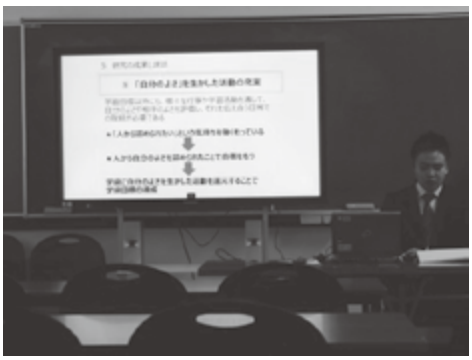
(2)思考力・判断力・表現力等
集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにすること

＜特別活動における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善＞

主体的な学びの実現
自分たちの実態や自己の現状に即して、課題を見いだしたり、解決方法を決めて実践したり、その取組を振り返り、よい点や改善点に気付いたりできるようにする

対話的な学びの実現
生徒相互の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方や資料等を手掛かりに考えることを通して、自己の生き方を協働的に広げ深めていく

深い学びの実現
知識を相互に関連付けてより深く理解したり情報を精査して考えを形成したり、新たな課題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることで、学んだことを深める



H31.2.15
東京都教育研究員特別活動部会研究発表会資料
小平市立小平第五中学校長　青木由美子

特別活動全体計画（例）

・日本国憲法
・教育基本法
・学校教育法
・学習指導要領
・東京都教育委員会の基本方針
・○○市教育委員会の基本方針
・○○市教育振興基本計画

学校教育目標

○ 考える人間　○ たくましい人間　○ 思いやりのある人間

＜めざす生徒像＞
・自他を尊重し、社会に貢献できる生徒　・自ら学び、よく考え、正しく判断ができる生徒
＜めざす教職員像＞
・生徒一人一人を大切にし、生徒の良さや個性を伸長する教職員
・常に自らを振り返り、日々研さんに務め、切磋琢磨できる教職員
・地域や保護者と積極的に関わり、信頼に応える教職員

・学校や生徒の実態
・教師や保護者の願い

特別活動の目標

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いの良さを発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次の通り資質・能力を育成することを目指す。
(1)多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
(2)集団や自己の生活、人間観駅の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
(3)自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

・各教科
・特別の教科「道徳」
・総合的な学習の時間
・朝の会、帰りの会
・清掃、日直等当番活動
・部活動

評価
・授業での行動観察
・ワークシート
・学習の振り返り
・実践場面の行動観察
・面接等

特別活動の指導の重点（各内容で身に付けさせたい資質・能力）

学級活動	○学級における集団活動や自律的な生活を送ることの意義を理解し、そのために必要となることを理解し身に付けるようにする。 ○学級や自己の生活、人間関係をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。 ○学級における集団活動を通して身に付けたことを生かして、人間関係をよりよく形成し、他者と協働して集団や自己の課題を解決するとともに、将来の生き方を描き、その実現に向けて日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。
生徒会活動	○生徒会やその中におかれる委員会などの異年齢により構成される自治的組織における活動の意義について理解するとともに、その活動のために必要なことを理解し行動の仕方を身に付けるようにする。 ○生徒会において、学校全体の生活をよりよくするための課題を見いだし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよくしたりすることができるようにする。 ○自治的な集団における活動を通して身に付けたことを生かして、多様な他者と協働し、学校や地域社会における生活をよりよくしようとする態度を養う。
学校行事	○各学校行事の意義について理解するとともに、行事における活動のために必要なことを理解し規律ある行動の仕方や習慣を身に付けるようにする。 ○学校行事を通して集団伽自己の生活上の課題を結び付け、人間としての生き方について考えを深め、場面に応じた適切な判断をしたり、人間関係や集団をよりよくしたりすることができるようにする。 ○学校行事を通して身に付けたことを生かして、集団や社会の形成者としての自覚をもって多様な他者を尊重しながら協働し、公共の精神を養い、よりよい生活を作ろうとする態度を養う。

特別活動の学年別指導の重点

	1年	2年	3年
学級活動	中学生としての自覚をもち，学校生活への適応を図るとともに，学級内の諸活動に積極的に取り組ませることによって，学級生活を豊かで充実したものにしようとする態度を育てる。 進路学習の意義と内容を理解させ，将来の生き方や進路選択に関する基本的な考え方を身に付けさせる。	自主的，実践的な活動を通して，中堅学年としての意識を高めるとともに，学級や学年における連帯感や所属感を高め，共感的な自己主張ができる態度や人間関係を育てる。 自己理解に努め，将来の生き方についての自覚を深めさせ，主体的に進路を決定し，将来を豊かに生きるための能力や態度を育てる。	最高学年としての自覚を深め，一体感のある学級や学年の人間関係をつくり，豊かで充実した学校生活を築こうとする態度を育てる。 自己理解を深め，自分のよさを生かすとともに，人間としての生き方や在り方についての自覚を深めさせ，現在及び将来にわたって自己実現を図ろうとする能力や態度を育成する。
生徒会活動	生徒会の一員として，中学校生活に適応するとともに，学級を中心とした集団活動を通して，相互理解を深め，他者に協力する態度や奉仕する心を育てる。	生徒会活動に意欲的に参加，実践させることによって中堅学年としての自覚をもたせ，集団の一員としての自覚を深めるとともに，学校全体のリーダーとしての力を身に付けさせる。	最高学年として，積極的にリーダーシップを発揮させ，生徒会活動を通して，充実した学校生活を築きあげるために中心的な役割を果たすことのできる生徒を育成する。
学校行事	学校行事を通して，学校生活への適応と，学級内の相互理解や交流を深め，学校生活を充実したものにしようとする態度を身に付けさせる。	学校行事を通して，学級や学年への所属感を高め，他者との協調性や連帯感を深めさせる。	最上級生として学校行事に積極的に参加させることによってリーダーシップを発揮させ，中心的な役割を果たさせる。

H31.2.15
東京都教育研究員特別活動部会研究発表会資料
小平市立小平第五中学校長　青木由美子

平成　　年度　　**特別活動年間指導計画（例）**

	学校行事	学級活動 1年	学級活動 2年	学級活動 3年	生徒会活動
4月	○始業式 ○入学式 ○避難訓練 ○離任式	○中学校生活の出発 学級目標・係活動(1)イ ○中学校の生徒会活動(1)ウ ○連休中の過ごし方(2)エ ○生徒総会議案書討議(1)ウ	○中堅学年としての心構え 学級目標・係活動(1)イ ○生徒会活動への積極的参加(1)ウ ○連休中の過ごし方(2)エ ○生徒総会議案書討議(1)ウ	○最上級生としての心構え 学級目標・係活動(1)イ ○生徒会活動への積極的参加(1)ウ ○連休中の過ごし方(2)エ ○生徒総会議案書討議(1)ウ	○専門委員会の組織づくりと活動計画作成 ○生徒会オリエンテーション（1年）
5月	○全校朝礼 ○身体計測 ○音楽鑑賞教室（2年） ○避難訓練 ○運動会	○中学校の学習 学習の環境づくり(3)ア ○学級組織の見直し(1)アイ ○運動会への取組(1)ウ(2)ア	○効果的な学習方法 私の勉強法(3)ア ○学級の問題点(1)アイ ○運動会への取組(1)ウ(2)ア	○効果的な学習方法 受験に向けて(3)ア ○運動会への取組(1)ウ(2)ア	○専門委員会 ○中央委員会 ○生徒総会 ○運動会への取組 ○あいさつデー ○生徒朝礼
6月	○全校朝礼 ○避難訓練	○健康な身体(2)エ ○中学校生活と生徒会 生徒会活動への積極的参加(1)ウ(2)ア	○健康な生活(2)エ ○中学校生活と生徒会 生徒会活動への積極的参加(1)ウ(2)ア	○学級生活の改善と向上(1)ア ○先輩の進路と私の進路（総合・進路）(3)アウ	○中央委員会 ○専門委員会 ○あいさつデー ○生徒朝礼
7・8月	○全校朝礼 ○終業式 ○大掃除 ○避難訓練	○１学期の反省(1)ア(3)イ ○夏休みの過ごし方(2)エ	○１学期の反省(1)ア(3)イ ○職場体験への意義と目的(3)イ ○夏休みの過ごし方(2)エ	○１学期の反省(1)ア(3)イ ○夏休みの過ごし方(2)エ ○修学旅行の意義と目的(1)ウ(2)ア	○中央委員会 ○専門委員会 ○あいさつデー ○生徒朝礼 ○選挙管理委員会 ○１学期の反省
9月	○始業式 ○防災訓練（引き渡し訓練） ○職場体験（２年） ○修学旅行（３年）	○地震と安全(2)エ ○夏休みの反省(2)アウ ○２学期の学級生活(1)アイ ○男女相互の理解と協力(2)イ ○働く意義(3)イ	○地震と安全(2)エ ○夏休みの反省(2)アウ ○２学期の学級生活(1)アイ ○男女相互の理解と協力(2)イ ○職業とは何だろう(3)イ	○地震と安全(2)エ ○夏休みの反省(2)アウ ○高校の先生の話を聞く(3)ア ○２学期の学級生活(1)アイ ○男女相互の理解と協力(2)イ ○修学旅行に向けて(1)ウ(2)ア	○立会演説会 ○生徒会役員選挙 ○専門委員会 ○中央委員会 ○あいさつデー ○生徒朝礼
10月	○全校朝礼 ○合唱コンクール ○避難訓練	○合唱コンクールに向けて(1)ウ(2)ア ○性教育(2)ウ	○合唱コンクールに向けて(1)ウ(2)ア ○職場体験から得たもの(3)イ ○性教育(2)ウ	○合唱コンクールに向けて(1)ウ(2)ア ○修学旅行を振り返って(2)ア ○性教育(2)ウ	○合唱コンクールへの取組 ○あいさつデー ○生徒朝礼 ○専門委員会 ○中央委員会

＜参考＞中学校学習指導要領解説特別活動編から抜粋

H31.2.15
東京都教育研究員特別活動部会研究発表会資料
小平市立小平第五中学校青木由美子

学級経営とは、一般的に、その担任教師が学校の教育目標や学級の実態を踏まえて作成した学級経営の目標・方針に即して、必要な諸条件の整備を行い運営・展開されるもの(P120)

学級経営の充実は、生徒理解に基づく教師と生徒との信頼関係や、生徒同士の信頼関係が重要であり、学級活動における自発的、自治的な活動が重要な意味をもつ。(P120)

（学級経営の充実について示されているのは）学校での学習や生活において、その基盤となる学級としての集団の役割が、生徒の今日的な様々な状況から、一層認識されてきたためである。(P121)

生徒指導とは、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動のことである。(P121)

学級経営と生徒指導の関連を図った、学級活動の充実がいじめの未然防止の観点からも一層重要になる。(P121)

特別活動の指導は、主に集団場面において生徒の集団活動の指導を通じて行われることから、生徒指導も集団場面における指導が基本となる。(P122)

総則において、特別活動が学校教育全体を通して行うキャリア教育の要になることが示されたことを踏まえ、キャリア教育に関わる様々な活動に関して、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通して立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこととした。また、その際、生徒が見通しを立てたり振り返ったりするための教材等を活用することにした。(P9)

キャリア教育の要としての役割を担うこととは、キャリア教育が学校教育全体を通して行うものであるという前提のもと、これからの学び舎自己の生き方を見通し、これまでの活動を振り返るなど、教育活動全体の取組を自己の将来や社会づくりにつなげていくための役割を果たすということ(P58)

学級活動（３）の内容が、キャリア教育の視点からの小・中・高等学校のつながりが明確になるように整理された(P59)

H31.2.15
東京都教育研究員特別活動部会研究発表会資料
小平市立小平第五中学校　青木由美子

特別活動における学習過程

学習過程において生徒が自発的、自治的な学級や学校の生活づくりが実感できるような一連の活動を意識して指導に当たる必要がある。

＜学級活動＞

（1）

①問題の発見・確認
学級全員で「議題」を決定
→
②解決方法等の話合い
→
③解決方法の決定
（合意形成）
→
④決めたことの実践
→
⑤振り返り
→
次の課題解決へ

（2）（3）

①問題の発見・確認
教師が「題材」を確認
→
②解決方法等の話合い
→
③解決方法の決定
（意思決定）
→
④決めたことの実践
→
⑤振り返り
→
次の課題解決へ

＜生徒会活動＞

①問題の発見・確認、議題の設定
（代表委員会、各種委員会、生徒総会）
→
②解決に向けての話合い
→
③解決方法の決定
（合意形成）
→
④決めたことの実践
→
⑤振り返り
→
次の課題解決へ

＜学校行事＞

①行事の意義の理解
→
②計画や目標についての話合い
→
③活動目標や活動内容の決定
→
④体験的な活動の実践
→
⑤振り返り
→
次の活動や課題解決へ

H31.2.15
東京都教育研究員特別活動部会研究発表会資料
小平市立小平第五中学校長　青木由美子

小平五中校区小中連携資料

小平第五中学校長　青木由美子

平成３０年度小平第五中学校生徒会サミットに向けた取組について

人権標語の作成
～いじめのない学級・学校づくり～

１　ねらい

（１）児童会・生徒会合同サミットを通して小平五中校教員の相互の校種理解
（２）サミットに向けた取組を通して本校生徒の人権尊重の態度の育成
（３）サミットに向けた取組を通して本校教員の人権教育に関する指導力向上

２　取組の流れ

○取組内容の共通理解
（教員）運営委員会で生徒会担当から提案　⇒　各学年・学級担任
（生徒）生徒会担当　⇒　生徒会役員　⇒　全校生徒・学級代表・中央委員

○取組の準備
・生徒会活動計画（実施要項）、学級活動計画の作成
・記入用紙（人権標語の短冊・振り返りシートなど）
・生徒会役員会、臨時学級代表全体会の開催
・学級活動の進め方、サミット当日の段取りについて確認
・サミットで発表するプレゼンの作成

３　取組内容

（１）生徒会活動
・生徒朝礼で生徒会長から「プロジェクト」と今後の予定について説明
・学年委員会で「学年の人権標語」を選ぶ（１～２点）
・中央委員会で「学校の人権標語」を１点選ぶ

（２）学級活動（１時間）
・「いじめのない学級・学校づくり」「いじめ防止の人権標語」について担任からの講話
・一人一人が「個人の人権標語」を作成
・班ごとに話し合って「班の人権標語」を作成（または代表作品選出）
・学級全体で話し合って「クラスの人権標語」を作成（または代表作品選出）

（３）児童会・生徒会サミットで発表
・平成３０年７月１７日(火)１５:３０～　上宿小学校にて
・本校で作成した「学校の人権標語」を発表する。（プレゼンテーション）

（４）校内での活用
・学校全体で決定したことを広く周知し、実践（生徒朝礼、生徒会便り、ポスターなど）

生徒朝礼

班の話合い

中央委員会

児童会･生徒会サミット

東京都中学校特別活動研究会　会則

第１章　　総　則

第１条　この会は東京都中学校特別活動研究会といい､会長校に事務局をおく。
第２条　この会は東京都における中学校の特別活動の振興を図ることを目的とする。
第３条　この会は前条の目的を達成するため次のことを行う。
　１．特別活動に関する研究調査
　２．特別活動に関する講演会、研究会等の開催
　３．各種機関・団体との連絡、提携に関すること
　４．その他本会の目的を達成する事業

第４条　この会は東京都と特別区、市町村教育委員会を単位とする研究団体、学校等をもって構成する。

第２章　役　員

第５条　この会は次の役員をおく。
　会長　　１名　　副会長　　事務局各部長、副部長から若干名
　事務局長　１名
　理事（区市町村各１名）
　会計　２名　　会計監査　２名

第６条　会長・副会長は理事会で選出する。理事は区市町村の推薦により会長がこれを委嘱する。
　会計、会計監査は理事会で互選する。
　事務局長は、会長が委嘱する。

第７条　会長はこの会を代表しその責任を負う。副校長は会長を補佐し、会長が事故あるときは代行する。
　理事は理事会において重要事項を審議し議決する。
　事務局長は、事務局を統括し、会務運営を担当する。
　会計はこの会の会計事務つかさどる。
　会計監査はこの会の会計を監査する。

第８条　役員の任期は１年とする。但し留任することができる。

第９条　この会は、会友、参与をおくことができる。

第３章　執行機関

第１０条　本会の会務を遂行するために事務局をおく。事務局には、事務局長のもとに、事務局次長１名のほか、事務局員をおく。

第１１条　事務局には、研究部、編集部、広報部をおく。
各部には、部長、副部長、部員をおく。

第１２条　各部の構成人員は、事務局員をもってこれに充て、会長が委嘱する。

第３章　　会　議

第１３条　この会の会議は次の通りとする。
１．総会
２．理事会

第１４条　総会は会長が招集し毎年１回開催する。但し必要に応じて臨時に開くことができる。

第１５条　総会の議決は出席者の多数による。
１．予算の決議及び決算等の承認
２．会則の変更
３．その他の重要事項

第１６条　緊急やむえない事情により総会を開くことができない場合は、理事会の決議をもってこれをかえることができる。この場合は次の総会で承認を受けるものとする。

第１７条　理事会は会長が召集し、会議の議長は会長があたる。なお、事務局長が参加するものとする。

第４章　会　計

第１８条　この会の経費は会費及びその他の収入でこれをあたる。

第１９条　この会の会費として年額下記の金額を負担する。
単位研究団体　１校　1000 円の割

学校単位での入会した場合　1000 円とする。

第２０条　この会計年度は毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

附　則

この会則は、昭和 47 年 4 月 1 日より実施するものとする。

平成２４年５月１２日　一部改正する。

平成３０年度　東京都中学校特別活動研究会組織　平成３０年５月２６日

役　職	氏　名	担当	勤　務　校	電　話	ＦＡＸ	職　名
会　長	青木　由美子		小平市立小平第五中学校	042-341-6795	042-341-6797	校　長
副会長	上岡　祥邦	広報部	足立区立六月中学校	03-3859-1072	03-3859-1078	校　長
副会長	齋藤　実	研究部	武蔵村山市立小中一貫校村山学園	042-561-1762	042-563-9354	統括校長
副会長	弓田　豊	会計部	中野区立中野中学校	03-3389-1471	03-3389-1472	校　長
副会長（顧問）	松本　康夫	編集部	東村山市立東村山第七中学校	042-391-9117	042-397-5421	校　長
副会長（顧問）	勝亦　章行		練馬区立関中学校	03-3929-0048	03-3929-9059	校　長
事務局長	荒巻　　淳		江戸川区立松江第一中学校	03-3652-0197	03-3652-0412	副校長
事務局次長	植木　俊孝		小金井市立小金井第一中学校	042-383-1161	042-382-0401	副校長
会計部長	藤本　謙一郎		練馬区立石神井東中学校	03-3996-2157	03-3997-3674	主幹教諭
副部長	弓田　豊		中野区立中野中学校	03-3389-1471	03-3389-1472	校　長
研究部長	瀬戸　完一		葛飾区立新小岩中学校	03-3695-2541	03-5698-1745	主幹教諭
副部長	齋藤　実		武蔵村山市立小中一貫校村山学園	042-561-1762	042-563-9354	統括校長
	吉川　滋之		東村山市立東村山第五中学校	042-391-9115	042-397-5419	主任教諭
	大塚　隆弘		江東区立深川第一中学校	03-3651-3241	03-3631-3803	主幹教諭
	吉田　義和		練馬区立開進第三中学校	03-3993-4265	03-5984-3036	主任教諭
	藤井　拓也		世田谷区立船橋希望中学校	03-3484-3741	03-3484-3745	教　諭
	横山　清貴		中野区立第四中学校	03-3330-5325	03-3330-5326	教　諭
	田中　識啓		江戸川区立小岩第三中学校	03-3657-1958	03-3657-1967	主任教諭
	佐藤　勝賢		大田区立南六郷中学校	03-3732-9351	03-3732-9353	教　諭
編集部長	滝沢　二三雄		江戸川区立南葛西中学校	03-3675-0317	03-3675-0607	副校長
副部長	松本　康夫		東村山市立東村山第七中学校	042-391-9117	042-397-5421	校　長
	田爪　一浩		中野区立第七中学校	03-3389-4171	03-3389-4172	副校長
	原　奈都子		江戸川区立小松川第二中学校	03-3685-4900	03-3685-4911	主幹教諭
	桒原　美絵		狛江市立狛江第一中学校	03-3480-0121	03-5497-7361	教　諭
	有川　直志		江東区立有明西学園（義務教育学校）	03-3527-6403		主任教諭
	小野　貴史		江戸川区立松江第一中学校	03-3652-0197	03-3652-0412	教　諭
	藤田　めぐみ		新宿区立落合中学校	03-3565-0701	03-3565-0728	教　諭
広報部長	谷口　典夫		狛江市立狛江第一中学校	03-3480-0121	03-5497-7361	主任教諭
副部長	上岡　祥邦		足立区立六月中学校	03-3859-1072	03-3859-1078	校　長
	鹿野　天一朗		足立区立第十中学校	03-3887-7891	03-3887-7893	教　諭
	伊木　文枝		東村山市立東村山第三中学校萩山分校	042-341-6639	042-347-4377	主幹教諭
	酒井　寛子		足立区立第十四中学校	03-3899-1191	03-3899-1192	教　諭
	村田　淳悟		江東区立深川第五中学校	03-3531-7785	03-3532-5849	教　諭
	加藤　拓人		江戸川区立小岩第三中学校	03-3657-1958	03-3657-1967	主任教諭
会計監査	山田　正隆		江戸川区立松江第五中学校	03-3652-7946	03-5662-2969	校　長
会計監査	大熊　恵子		練馬区立豊玉第二中学校	03-3993-4212	03-5984-2586	副校長
顧　問	加々美　肇		江東区教育センター(教育相談員)	03-3645-8463	03-5690-4049	
顧　問	佐々木　辰彦		東大和市教育委員会（経営支援員）	042-561-6134	042-590-7027	
顧　問	長谷川　晋也		墨田区適応指導教室ステップ学級(指導員)	03-5608-6919	03-5608-6919	